ライオン誌（毎月20日発行）第54巻第9号 2012年2月20日発行 第3種郵便物認可

LION

IN JAPAN Official Publication of Lions Clubs International
WWW.THELION-MAG.JP MARCH 2012
3

ケイ・フクシマ元国際会長を迎えて

日本ライオンズ・メンバーシップ・セミナー

ご案内

ウィンクン・タム国際会長の意向を受け、ケイ・フクシマ元国際会長をメーン・スピーカーとする「日本ライオンズ・メンバーシップ・セミナー」が開催されることとなりました。

タム国際会長は、日本ライオンズへの感謝に併せて、世界をリードすべき日本ライオンズの会員動静に強い関心を示されていらっしゃるところです。日本の会員減少傾向に歯止めがかかり、OSEALのリーダー・ライオンズ国として日本が力強くその将来へ向けて歩むことに大きな期待を寄せられている旨、常々発言されています。その思いを、信頼されるフクシマ元国際会長に託し、GMTとの協働によるセミナーが企画されました。

フクシマ元会長は、多くの方がご存じの通り日系アメリカ人としても常に日本ライオンズの発展を願い、日本ライオンズの将来を広範に支えてくださる強い信念をお持ちです。昨年のシアトル国際大会ガバナー・エレクト・セミナーにおいても講演され、東日本大震災に触れられながら「勇気」についてお話されたことも私たちの記憶に新しいところです。

今般のセミナーでは、パネル・ディスカッションに加え、参加各メンバーとの双方向コミュニケーションを軸とした能動的な討論が予定されております。

すぐ先の日本ライオンズを担う、情熱あふれるライオン諸兄諸姉の参加を求めます。日本ライオンズに変革を促し、日本ライオンズが進むべき道を共に語る場へ、多くの新進気鋭の同志ライオンが参加されることに期する次第です。

運営：日本GMT　国際理事・GMTエリアリーダー(西日本)　高田順一
元国際理事・GMT会則地域副リーダー(OSEAL)　後藤隆一
元複合地区ガバナー協議会議長・GMTエリアリーダー(東日本)　後藤忍

＜募集要項＞

日　　時：2012年4月1日(日曜)11:00～16:30
会　　場：東京ベイ舞浜ホテル クラブリゾート（東京ディズニーリゾート隣）http://www.tbm-clubresort.jp/
対　　象：国内ライオンズクラブ・メンバー
登 録 料：6,000円（昼食代含む）
参加申込：従前に各地区キャビネット宛に文書が送付されており、地区を通じて複合ごとにまとめてお申し込み頂く手順となっております。参加希望者は所属地区キャビネットへご連絡賜りますようお願い申し上げます。なお、ご事情により特に個人での申し込みを希望される場合は、333-C地区キャビネット事務局へ以下の事項をFAX（用紙随意、4月1日セミナーと明記／3月16日締切）にてご送付ください。
記入事項：「氏名（漢字・ふりがな）・準地区名・クラブ名・電話番号・FAX番号」
送 付 先：333-C地区キャビネット事務局　FAX：043-247-4756

LION MAGAZINE IN JAPAN
March 2012, Vol.54 No.9

We Serve CONTENTS

■2012年3月号
表紙
徳島県美馬市脇町
うだつの町並み
写真／鈴木秀晃

本誌は環境に配慮したFSC®認証紙を使用しています。

MESSAGE FROM THE PRESIDENT

世界にライオンズの素顔を知らせよう

ラップ･ミュージックというと現代の若者を連想されるかもしれませんが、ラップは情報を伝え、新たな対象に訴える画期的な手段でもあります。例えば、香港のライオンズクラブは薬物乱用防止のラップ･コンテストを実施し好評を博しました。コンテストの優勝者は、「ライオンズというのは高齢者だけを助けている団体だと思っていた」とメンバーに話しました。ラップ･コンテストが彼の目を開いたと同時に、その他多くの人々に対してもライオンズの多角的な奉仕の使命をアピールする結果となりました。

アメリカ･ウィスコンシン州のライオンズは、国際協会と協力して大変面白いラップ･ビデオを制作しました。国際協会はライオンズが取り組む多様な奉仕事業を紹介しながらも、ライオンズのユーモラスな一面も表現したいと考えていました。このビデオは、ライオンズは年寄りくさく時代に遅れているという固定観念を覆したのです。ビデオは公共広告や大型看板、オンライン広告などと共に、国際協会が取り組んでいる大規模な広報活動の一環です。

ラップ･コンテストはライオンズへの注目を集めました。ラップ･ビデオはこれに魅了されたライオンズやその他の人々がメールやツイッター、フェイスブックで紹介したことにより、あっという間に広まりました。ライオンズはPRにもっと力を入れる必要があります。PRには効果があります。我々の活動と本質を知らせることで、会員が増え、パートナーが増え、支援が増えます。1世代前、2世代前であれば何もしなくても人は集まってきたでしょう。そういう時代は過ぎ去りました。このインターネットの時代、情報の巨大な渦と注目集めの激しい競争の中にあって、成功はそれを追い求める者にのみやってきます。

クラブは新聞やテレビなど従来のメディアはもちろん、ソーシャル･メディアやウェブ上のネットワークにもアピールすべきです。クラブのウェブサイトやフェイスブック･ページを設けるか、より良いものに改善してください。YouTubeにビデオをアップロードしてください。新しいアクティビティ報告システムを活用して、成功した活動を国際協会に報告してください。

複雑な知識は必要ありません。国際協会が手助けします。協会のウェブサイトにフェイスブックのページを開設する方法を説明するビデオ（英語）が掲載されている他、Eクラブハウスで数分のうちにウェブサイトを作成することも出来ます。また、主要メッセージの作成の仕方、プレス・リリースの書き方、テレビやラジオでライオンズの広告を流す方法なども紹介しています。

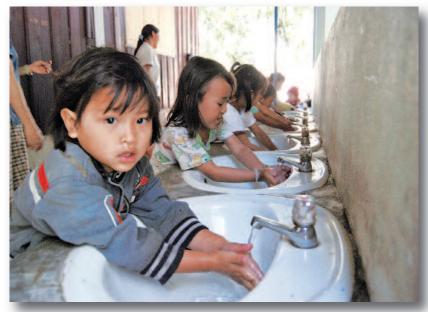
PR活動の力を信じ、勇気と決意を持って行動しなければいけません。あなたとあなたのクラブが実行しなければ実現しません。ライオンズのことを語ってください。ウェブで、新聞で、叫んでください。新会員と奉仕のレベル向上は必ずついてきます。

2011-12年度国際会長
ウィンクン･タム

ライオンズクラブ国際財団

　視力、青少年、災害救援、その他の人道奉仕という基本分野で交付金を支給し、ライオンズクラブの奉仕をサポートするLCIF。日本のクラブがタイ北部チェンライ、チェンマイで実施した交付金事業のリポートと、2010-11年度のLCIF年次報告を掲載する。

第8回LCIFスタディ・ツアー

社会から取り残された人々に寄り添う タイ北部でのLCIF交付金事業

2010・11年度に日本に交付された一般援助交付金・国際援助金は28件。その半数の14件が発展途上国への支援だった。LCIFは2003年から日本の会員を対象に主に東南アジアの国々で実施された事業を視察するスタディ・ツアーを企画している。今年で第8回目となったスタディ・ツアーには22人が参加し、1月17日から6日間の日程でタイ北部のチェンライ、チェンマイを訪問した。山岳少数民族の村に清潔な水を供給する事業や、ストリート・チルドレン収容施設の支援など、今回のツアーで視察した交付金事業の成果をリポートする。

山岳少数民族の村に清潔な水を

タイ北部チェンライ市の中心部から西へ20キロ余り、幹線道路を外れて田んぼの間の細道をしばらく進む。北部とはいえこの辺りも二期作が可能で、ちょうど田植えを終えたばかりの田んぼも見える。スタディ・ツアー一行と愛知県・東海ライオンズクラブの会員6人が目指したのは山岳少数民族カレン族の村、パクラ村のヤンカムヌ幼稚園。小さな園舎の脇には高さ9メートルの櫓がそびえ、銀色の貯水タンクが輝いている。7年前、東海ライオンズクラブがLCIF国際援助交付金を得て設置したものだ。

タイには北部を中心に、カレン族、ラフ族、リス族、アカ族など10を超える山岳少数民族の人々が、約100万人いると言われている。それぞれに独自の文化風習と言語を持つ彼らは中国南部にルーツを持ち、ミャンマー、ラオスを経て南下してきたと考えられている。陸稲などの焼畑農業を営み、移動しながら暮らしてきた人々だ。

タイ、ミャンマー、ラオスの国境地帯と言えば、「ゴールデン・トライアングル」と呼ばれて、かつては世界最大の麻薬の産地として知られた場所で、ケシの栽培には山岳少数民族も深くかかわっていた。近年はタイ政府の厳しい取り締まりによって、ケシに代えて茶やコーヒー、シイタケなどの栽培が進んでいる。

1980年代後半からは森林保護のために焼畑が禁止されて、山岳少数民族の定住化が進められてきた。低地に根を下ろして国籍や居住権が認められても、その生活は貧しく、就学の機会も十分ではない。偏見や差別も根強いものがある。

東海ライオンズクラブが、そうした山岳少数民族の人々への支援事業を計画したのは2005年のことだ。以前から度々タイ北部を訪れ、少数民族の窮状を目にしていた当時のクラブ幹事ライオン竹

チェンライ ライオンズクラブは日本のライオンズの協力で集めた冬物衣料を山岳民族の人々へ届ける活動を続けており、ツアー一行も配布に協力した

リス族の村に設置された大きな水甕

内篤郎が支援を提案。地元チェンライライオンズクラブに協力を求めたところ、タイ人の夫と共に旅行代理店を営む日本人女性ライオン山地幸が、現地でのリサーチや調整役を担ってくれることになり、両クラブの協力で計画が動き出した。

ライオン山地によれば、山岳少数民族の村で支援のニーズが高いのは、生活に欠かせない水の確保だという。多くの村で、山の湧き水や雨水を貯めて生活用水や飲料水に使い、不衛生な上、乾季に山の水が涸れると雨水だけに頼らざるを得ない。パクラ村の近くには川が流れているが、上流で大量の農薬が使われ汚染されているので使えない。ヤンカムヌ幼稚園でも貯め水が使われ、その水が原因で子どもたちの多くが結膜炎を患っていた。この幼稚園は、町へ働きに出る親たちが子どもたちを預けるため村人が作ったもので、行政の認可はなく、狭い園舎は老朽化してひどい状態だった。

「屋根には穴が空いて天井もなく、壁はぼろぼろ、床には鳥の糞が落ちていました。二つあるトイレのうち一つは壊れたまま。汚れた水のせいで眼を赤くしていたり、お腹を壊している子もいました」

初めて幼稚園を訪れた時の様子を、当時クラブ会計だったライオン早川陽一はこう説明する。

そこで東海ライオンズクラブでは、井戸と貯水タンクの設置、校舎の天井や壁の修繕と増築、そしてトイレと手洗い所を設置することを決定。東海ライオンズクラブが9100ドル、チェンライライオンズクラブが2850ドルの資金を用意し、LCIFから国際援助交付金1万ドルを受けて事業を完了させた。地下60メートルの井戸から汲み上げた清潔な水は、幼稚園だけでなく、村人たちの生活を潤している。

この支援をきっかけに、ヤンカムヌ幼稚園は教育委員会の管理下に置かれ、行政の支援が受けられるようになった。事業当時は39人だった園児は、最近はラフ族の子どもたちも通って50人を超えている。東海ライオンズクラブのメンバーは事業完了後も訪問を重ね、村と幼稚園を見守っている。

「外から不用意に人や物が入り込むことで、村の人たちの営みを乱すことにならないか、常に考えています」

というライオン竹内の言葉から、村の暮らしに寄り添うような支援の在り方が見えてくる。

◆

チェンライ市近郊ではもう1件、愛知県・岡崎南ライオンズクラブが、国際援助交付金1万ドルを受けた給水設備支援

事業を実施している。チェンライ ライオンズクラブとの協力で09年5月に完了したこの事業では、ドンライ町の145世帯に浄化タンク濾過装置を設置し、安全で衛生的な飲料水の確保に貢献した。チェンライ ライオンズクラブはまた、ライオン山地によるソーシャル・ネットワークを通じた呼び掛けに応えた日本のライオンズ会員の資金協力により、リス族とラフ族の村へ渇水対策用の水甕120個を贈る活動も実施している。スタディ・ツアーはこのうちリス族の村を訪れて、ライオン山地の説明を受けながら、協力者の氏名が記された水甕と村の生活の様子を視察した。

◆

ヤンカムヌ幼稚園視察の翌日、スタディー・ツアー一行は愛知県・豊橋西ライオンズクラブが国際援助交付金1万5244ドルを受け実施した、車いす寄贈事業の寄贈式に出席した。豊橋西ライオンズクラブは2005・06年度から、フィリピンやタイの障害者へ中古の車いすを贈る活動を続けている。今年度は40周年記念事業でもあり、会員と家族20人が寄贈式に臨んだ。

この事業は、会員の一人がフィリピンへ旅行した際、車いすを手に入れられない障害者の状況を知り、クラブに報告したのがきっかけでスタートした。初回はフィリピンのマニラ・サンパロック ライオンズクラブとの合同事業で60台を寄贈。2回目からは名古屋に拠点を置いてアジア諸国へ車いすを送る活動を続けているアジア障害者支援プロジェクト(AJU)と連携している。クラブは集めた中古の車いすと送料を同プロジェクトに託し、そこからタイのアジア障害者支援車いすセンターへ送られ、障害者の元へ届けられる。これまでに寄贈した車いすは、今回の寄贈で730台に上った。中古車いすの収集は新聞などのメディアを通じて行い、愛知県立豊橋工業高校の生徒と共に修理して、プロジェクトに寄託している。

「下肢障害のあるお子さんの成長と共に不要になった車いすを提供してくださるなど、市民の皆さんが呼び掛けに応えてくださいます。中には支援に役立ててほしいと寄付をくださる方もありました」と伊藤充宏会長は話す。

節目となる35周年、そして40周年の今年度は、記念事業としてクラブ独自に支援先を決め、現地のライオンズクラブと協力しながら事業を進めた。今回のパートナーはチェンライ ライオンズクラブ、ナコン・チェンライ ライオンズクラブ、メーサイ ライオンズクラブで、豊橋西ライオンズクラブから中古100台、新車30台、AJUが中古50台を提供して計180台を寄贈した。

AJUではただ施設などに車いすを届けるだけでなく、本当に必要な人の役に立つように、どの車いすが誰の手に渡ったかを把握するようにしている。そのため今回も、地元3クラブが各町村の協力を得ながら作成した名簿に従って、支援を必要とする障害者の元へと車いすが届けられた。

豊橋西ライオンズクラブでは、40周年大会委員長だったライオン正木通弘が昨年8月に登山中の事故で亡くなり、故ライオン正木が情熱を注いでいた今回の事業に特別の思いで臨んでいた。寄贈式には夫人・トク子さんも参加され事業の完了を見守った

過酷な運命を背負う子どもたちのために

　チェンライ市からバスで南へ180キロ、タイ北部最大の都市チェンマイ市では、過酷な境遇に置かれた子どもたちを支援する二つの施設を視察した。HIVに母子感染した孤児たちの生活施設バーンロムサイと、ストリートチルドレン収容施設チェンマイ子どもの家だ。

　バーンロムサイは1999年に代表の名取美和さんが立ち上げた孤児院で、現在は26人の孤児たちが暮らしている。スタディ・ツアーでは06年に続き二度目の訪問だ。ここでは一般援助交付金を受けた日本のライオンズによって、2件の施設建設事業が実施されている。01年に北海道・札幌しらかばライオンズクラブが建設した建物は女子の生活棟として、03年に330・B地区（神奈川県・山梨県）が建設した建物は食堂と集会場、男子の生活棟として使われている。

「バーンロムサイ」は「ガジュマルの下で」という意味。濃い緑がいっぱいの広い敷地の中、元気に伸び伸びと暮らす子どもたちだが、生涯HIVウイルスを抱えて生きるという過酷な運命を背負っている。抗HIV薬を12時間ごとに必ず服用し、いずれ耐性がつけばより高額な新薬に換えて服用し続けなければならない。薬とその副作用、社会で待ち受ける差別や偏見など、行方には多くの壁が待ち受ける。

　昨年10月、18歳になった6人の子どもたちが施設から初めて巣立っていった。中にはいずれは日本に留学したいと勉強に励み、名門国立大学のチェンマイ大学に合格した男子もいる。6人はバーンロムサイの支援を受けながら、自立への道を歩んでいる。

　ここでは寄付だけに頼らずに施設が続けられるように、敷地内の縫製場で布製品などを作っている他、ゲストハウスの運営も手掛けている。こうした事業が将来、孤児たちの働く場となることも想定して、今後は農業にも挑戦しようと試みを始めているという。

　もう一つの施設チェンマイ子どもの家は、現地NGOアーサー・パッタナー・デック財団がストリート・チルドレン支援のため運営している。観光客でにぎわうチェンマイのナイトバザールには、花などを売り歩いたり、物乞いをする幼い子どもの姿がある。その多くは国境付近から流れてきた山岳少数民族の子どもたちで、彼らには麻薬や児童売春などの危険が待ち受ける。財団ではチェンマイ中心街に「ドロップ・イン・センター」を置き、緊急避難場所として子どもたちを受け入れる相談窓口となっている。更に希望する子どもは、郊外にある子どもの家で共同生活を送りながら学校に通わせ、自身の力で歩み出せる日を目指す。

　この子どもの家には2009年、333・E地区（茨城県）が一般援助交付金を受けて、職業訓練センターを建設した。

　07年の地区分割で茨城県単独の地区構成となって以降、同地区ではライオネスクラブの多くがライオネス支部としてライオンズに移行している。これに伴い、ライオネス基金400万円を

アクティビティに活用しようと、09年度の立原祐司地区ガバナーの下、現・元ライオネス会員の合同事業として女性らしいアクティビティを模索。チェンマイ子どもの家への支援を決めて、一般援助交付金3万2500ドルを申請した。この事業には地元チェンマイの女性クラブ3クラブも賛同して現地でのサポートに当たってくれた。

子どもの家では、将来子どもたちが自活出来るような技術を身につけさせようと、縫製や染色、木工などを教えていたが、専用のスペースも十分な備品もなかった。333-E地区は、2階建ての職業訓練センターを建設し、更に工業用ミシンや染色用器具、木工工具などの備品も購入した。

「建物を作るだけでなく必要な備品をそろえたことで、完成したすぐその日から使えると非常に喜ばれました」

と、立原元ガバナーは振り返る。スタッフとして、11年間にわたり子どもたちを見守ってきた出羽明子さんは、

「このセンターが出来てから、子どもたちはさまざまなアクティビティの中から自分に合ったものを探せるようになりました。また、ここで作った製品の売り上げにより教育ファンドを設立することも出来ました」

と、事業の成果を語ってくれた。

2010-11年度LCIF年次報告

LCIFは世界を変える

LCIFは人道奉仕における世界的リーダーであり、『フィナンシャルタイムズ』の独自調査で「提携すべき非政府組織（NGO）」の第1位に選ばれました。2010-11年度には519件の事業に3600万ドルが交付され、交付金総額は前年度に比べ1300万ドル増加しました。いくつか例を挙げてみましょう。

- 45件総額1239万ドルの視力ファースト交付金を通して2064829人が失明から救われ、または視力を回復
- 200件総額169万ドルの緊急援助金で7万850人の被災者を支援
- 38件総額167万ドルのライオンズクエスト交付金を通して25万人の青少年が重要なライフスキルを習得
- 14万1837人の明るい未来のために136件総額617万ドルの一般援助交付金を提供
- 28件総額37万7026ドルの国際援助交付金により7万5777人余りに浄水と医療使節団による医療を提供

◆

最高のパートナーと協力する

LCIFは地域団体、国際組織、政府、企業と提携して基金を活用しているため、そのすべてが本来の額面を大きく上回る価値を生んでいます。

2010-11年度 LCIF理事長メッセージ

人々の生活を変えて

支援が必要な人々とライオンズの橋渡しとなるライオンズクラブ国際財団（LCIF）は、世界最大の奉仕団体であるライオンズクラブ国際協会の中核です。私たちは、人々に幸せを送り、また世界のあらゆる地域に新しい生活を提供しています。

私はLCIFの理事長を務める機会に恵まれたことをとても誇りに思うと同時に感謝しています。世界の人々の笑顔を見ることが出来たことを、私は永遠に忘れることはないでしょう。昨年は、実に多くの感動的な光景を体験してきました。マダガスカルではライオンズはしかイニシアチブのパイロット・プログラムに参加し、マリーという女性と出会いました。彼女は生後9カ月の息子に予防接種を受けさせるためにやって来ました。そして満面の笑顔で、息子がワクチン接種を受けられたことに感謝を示してくれたのです。

この1年、LCIFを支援してくださった皆さんにお礼を述べたいと思います。私たちは問題を発見し、その解決策を探し出すという長い実績を持っています。例えば、ブラジルのマルセロは視力を取り戻しました。また、私の母国ドイツのマービンのように、多くの青少年がライオンズクエストを通してライフスキルを身に付けました。ハイチにいるイベットや他の人たちのために被災地の復興にも貢献しました。そしてパトリックのような乳児の健康を改善しました。

これらのプロジェクトは、ライオンズの皆さんが献金で協力してくれるだけではなく、実際に現場で活動に携わっていなければ、実現することはなかったでしょう。私たちはまたパートナーとして提携した組織の支援にも感謝をしています。彼らは私たちと理想を共有しています。私たちは、誰とでもパートナーになるわけではなく、最高の団体とのみ提携を結ぶのです。今年は新しい成長パートナー企業数社が、私たちの任務を推し進めてくれました。児童における白内障を予防及び治療するためにボシュロム社のアーリー・ビジョン研究所と提携し、はしかを予防するために、はしかイニシアチブやビル&メリンダ・ゲイツ財団と提携しました。今後もこうしたパートナーシップの成功を楽しみにしています。

他の組織が私たちとパートナー提携をするのは、私たちが世界の非政府組織の首位に立ち続けているからであり、それは献金会員を始めとした多くのライオンズのおかげです。私たちは共に力を合わせて、多くの人々の生活をより良いものに改善していきます。私たちは団体として、更に多くのことを成し遂げる力を持ち合わせています。

私たちの未来は希望と笑顔で満たされています。そして皆さんが引き続き支援活動をしてくださることにより、世界中のライオンズが力を合わせて、更に多くのニーズを満たし、そしてより多くの人々の生活を変えていくことが出来るのです。

真心を込めて。

2010-11年度LCIF理事長・元国際会長
エバハルト・J・ヴィルフス

支援を高める

一方、2010-11年度の献金総額は4800万ドルで、前年度を1300万ドル（40％）も上回りました。その分、交付金を増やし、より多くの人々を支援することが出来ました。

視力ファースト

失明の予防と視力の回復は、国際協会の創設以来ライオンズの奉仕の中核を成してきました。1991年に開始された視力ファーストは、ライオンズの努力に基づき世界中にインパクトを与え続けています。2回の資金獲得キャンペーンを通して彼らが集めた資金は4億1500万㌦に達し、この世界的プログラムを支えています。今年20周年を迎える視力ファーストは、医療が行き届かない世界中の地域で視力を保護し、失明を予防してきました。

ライオンズの取り組みのインパクトは大きく、コロンビアから河川盲目症を根絶し、インドと中国では白内障手術の待機患者を減らし、エチオピアではトラコーマの流行を食い止め、世界中で眼科医療へのアクセスを向上させています。視力ファーストⅡキャンペーン（CSFⅡ）を通して獲得された資金は、視力への新たな脅威と闘うプログラムを拡大し、研究とリハビリテーションを目的とした新たな事業を推進するために役立てられています。

3千万人が視力ファーストに感謝

ブラジル・セルジッペ州の貧しい小村に暮らす12歳のマルセロは、視力ファーストによって視力を取り戻した3千万人の一人です。彼は切実に眼鏡を必要としていましたが、手に入れるまで、少なくとも3年は待たなければなりませんでした。彼の父親が眼鏡の代金を稼ぐには、それくらいの時間が必要だったのです。しかし、ライオンズが近隣で視力検査を実施したことから、マルセロは新しい眼鏡を無料で手に入れました。視力ファースト交付金によって、必要としている人々に検査、眼鏡、フォローアップ治療や手術を提供することが出来たのです。ライオンズは世界中でこのような視力検査を行うことで、金銭的に余裕のない人々や、病院その他の眼科医療から隔絶された地域に暮らす人々に質の高いケアを提供しています。

失明者と視覚障害者を9％減少

ライオンズの視力ファースト事業は絶大な成果を生んでいます。世界保健機関（WHO）の2010年の調査によれば、04年以降、失明者と視覚障害者は世界中で2600万人（9％）減少しています。この調査は、04年に3億1100万人であった視覚障害者数

が、10年には2億8500万人まで減少したことを示しています。失明者は中国で100万人、インドでは200万人減りました。アフリカでも04年以降、7%の減少となっています。

児童1億2100万人の視力を保護

アニス・ジャマルディンは、9歳の娘の目を気に掛けていました。この数カ月間、瞳孔が徐々に白くなってきているように見えたからです。クイーン・エリザベス病院の施設を訪ねたところ、2年前にバドミントンのラケットで負った傷による外傷性白内障と診断されました。しかし、彼女はその翌日に視力回復手術を受けることが出来ました。マレーシアにあるこの施設は、1億2100万人の児童の視力を保護している世界35カ所の施設の一つです。小児失明予防プログラムはWHOとの提携によるもので、LCIFはこれまでに500万ドル余りの資金を提供しています。

取り組みを拡大

CSFⅡを通して獲得された資金は、視力ファーストの対象を拡大するために役立てられています。このプログラムでは現在、弱視プログラムの開発・拡大と、教育・リハビリテーション研修の提供に取り組んでいます。アメリカ・カンザス州ではライオンズに対する最近の交付金によって、弱視サービスが州全域に拡大されることになりました。この事業は、インフラ整備、人材の育成、的を絞ったサービスの提供、弱視教育・認識向上キャンペーンを通して、乳児と児童を対象としたカンザス州盲学校の弱視プログラムを拡大強化しようとするものです。事業に参加している検眼士、ケンドール・クリュッグは次のように述べています。

「LCIFによる最近の視力ファースト交付金は、カンザス州全域の視覚障害児に直接利益をもたらすことになるでしょう。人口が農村部に広く散らばっている州では、時代遅れの一点集中型のアプローチで高度な弱視サービスを提供しても、視覚障害児の大多数に支援を行き届かせることは不可能でした」

大災害援助

東日本大震災

世界中のライオンズはLCIFを通して2100万ドルの資金獲得に協力し、日本での復興活動を支援しています。

現在、日本から申請のあった緊急放送難視聴地域向け防災行政ラジオ、復興屋台村什器備品支援、コインランドリー兼集会所、高圧洗浄機放射能除染用などの事業が承認されている他、特別財政支援100万ドル、ライオンズ運営センター設置補助50万ドルが交付されています。

更に日本の10万人余りのライオンズは独自に、次のような事業によって、2011年3月の地震と津波以降の救援活動を着実に進めています。

- 食料、水、寝具、医薬品、障害者や高齢者用特殊機器を含む物資を提供
- 被災者に対する炊き出しを実施
- たすきプロジェクトと連携し被災者に衣料品を配布
- 内定取り消しを受けた高校生の就職支援活動を実施
- 被災地支援のために街頭募金を実施

ニュージーランド

飲用水が不足していたため、ライオンズは即座に2千本の水ボトルを届けました。ニュージーランドのクライストチャーチでは、2011年2月の地震以降、救援活動が現在も続けられています。世界中のライオンズはニュージーランドへの援助を呼び掛け、LCIFの指定口座に迅速かつ惜しみなく献金することで、会員が主導する救援活動を支援しました。いくつか例を挙げてみましょう。

- 被災者、特に児童に対するカウンセリングやセラピー活動などの社会奉仕を提供
- 給水所と救援センターを運営
- 炊き出し、水ボトル、食料品、燃料の引換券を提供
- トラックに積んだ救援物資をクライストチャーチへ配達
- 赤十字社と協力して各戸に必需品を配給

再建によって新たなより良い町に

木が屋根を突き破った時、幸いウィル・ケッツェメシーの家には誰もいませんでした。しかし、アメリカ・ミシシッピ州ジョプリンで猛威を振るった竜巻は、8千戸の住宅や事業所と共に彼が育った家を破壊しました。ライオンズはファースト・レスポンスと協力し、その家を含む29戸のがれきを取り除きました。また、被災者のために食料品の買い出しを行い、学校の備品や設備も購入しました。ジョプリンは2011年4月と5月の一連の暴風によって被災したアメリカ14州の多くの町の一つです。ライオンズは支援の手を差し伸べ、その姿勢は過去の災害、また今後の災害においても変わりません。

ライオンズクエスト

カテリーナ・マランゴンは、ライオンズクエストによって前向きな選択のスキルを身につけた1200万人余りの青少年の一人です。このプログラムは彼女の母国イタリアだけでなく、世界中で拡大を続けています。青少年の健康を改善し、明るい未来を築くという旧来の誓いを、ライオンズは継続的かつ積極的に果たしています。

ライオンズクエストのカリキュラムは重要なライフスキル、健全な態度、強い意志を養い、良好な関係を築き、社会に積極的に参加するために役立ちます。調査に基づくその内容は、世界中の教育機関や政府から絶賛されています。

ライオンズクエスト・プログラムを実施している国々は、世界中で70カ国に達しています。昨年度は拡大を重視した結果、新たに六つの国と地域でこのプログラムが開始されました。

ブータン、エジプト、ボリビア、インドネシアでは新しい試験プログラムが進行中で、フィリピンとモルドバにはプログラムの開始に向けて交付金が提供されました。ライオンズは教育者や政府と協力し、更に多くの生徒が人生で成功するために不可欠なスキルを養えるよう保証しています。

この世界的な拡大に伴い、いくつかの新たな資料が提供されています。ライオンズは世界中の国々で、ライオンズクエストのインパクトを目の当たりにしています。

- ライオンズクエスト・プログラムに参加している生徒の成績平均点が全

LCIF活動報告 2010年7月1日～2011年6月30日

単位：ドル

収入	
献金	
一般献金	42,548,562
視力ファーストⅡ献金	5,443,859
正味遺贈年金	-27,200
ライオンズクエスト収入	334,680
投資収入	34,091,039
正味為替差益	203,893
収入合計	82,594,833
支出	
交付金	
視力ファースト交付金	11,355,189
一般援助交付金	5,775,615
四大交付金	2,570,048
災害援助金	1,656,418
国際援助交付金	353,859
用途指定交付金	13,480,522
その他の交付金	1,466,071
奉仕プログラム支出	
視力ファースト	2,965,626
ライオンズクエスト	1,193,891
その他	618,822
その他支出	
管理費	3,969,398
開発費	3,947,908
支出合計	49,353,367

LCIF財務状況 2011年6月30日現在

資産	
現金及び同等物	11,680,728
売掛金	24,328
誓約金受取勘定	58,638
アメリカ以外の地区からの受取勘定	515
ライオンズクラブ国際協会からの受取勘定	6,543,611
経過利子再建	586,580
在庫品	401,774
投資	295,474,402
有形固定資産及び備品	166,636
資産合計	314,937,212
負債及び正味財産	
買掛金	408,278
未払金	499,903
交付金支払	38,685,192
事前贈与年金預り金	278,250
負債合計	39,871,623
純資産	
用途無指定資産	151,161,811
用途一時指定資産	123,403,778
用途指定資産	500,000
正味財産合計	275,065,589
負債及び正味財産合計	314,937,212

体に14％向上

- 四大陸における地域研修に25カ国が参加
- 50万人の教員が研修を修了
- アメリカの47州がライオンズクエストを通してライフスキルを教育：モンタナ州とアラバマ州では今年プログラムを開始
- アメリカ・イリノイ州、シカゴ公立学校のティルデン高校では、ライオンズクエストの開始初年度に卒業率が50％向上

ノボ財団による10万ドルの交付金

ノボ財団は、ライオンズクエストの恩恵を受ける青少年を確実に増やすために手を貸しています。この交付金は、クリントン・グローバル・イニシアチブによるＬＣＩＦの「行動への参加」に役立てられます。その目的は２０１２年までに、アメリカのある大きな学区全域の幼稚園児から高校３年生にライオンズクエストを拡大することです。

日本の児童を支援

日本の332・C地区（宮城県）では、1千人余りの生徒が重要なスキルを学び、地震と津波によって最近経験した悲劇から立ち直ろうとしています。１６０人の参加者を対象に、八つのライオンズクエスト・ワークショップが開かれました。

３千人の生徒

アメリカ・アーカンソー州では３千人近くの中高生が、社会的・感情的スキルを養っています。10万ドルの交付金によって、ライオンズクエストが州全域に拡大されています。

ワン・ショット、ワン・ライフ

1ドル以下で命を救う はしかイニシアチブ

Lions Clubs International FOUNDATION

予防第一

「はしかに苦しむ子どもを見たことがあります。息子には絶対にかかってほしくない病気です」

マダガスカルのパスカリーヌ・ラソウンジャナハリーさんは、ライオンズによる予防接種キャンペーンのラジオ広報を聞き、早速息子のパトリック（9カ月）を会場に連れて来た。

はしかは非常に感染しやすいウイルス性の病気だ。乗客100人が乗ったバスに感染者が1人いて他の99人が予防接種を受けていないとしたら、90人が感染すると言われている。また罹患してしまうと特に有効な治療法がなく、途上国では致死率も高い。が、「ワン・ショット、ワン・ライフ」。予防接種を1回受けさえすれば、その効果は生涯続く。そして注射の費用は1ドルに満たない。1ドル以下で1人の子どもの命を守ることが出来るのだ。

ライオンズクラブ国際財団（LCIF）は、世界保健機関（WHO）、国連財団、ユニセフ、アメリカ赤十字社、及び米国疾病対策予防センターが取り組むはしかイニシアチブの公式パート

ナーだ。2010年度に参加し、エチオピア、マリ、ナイジェリア、そしてマダガスカルではしか撲滅キャンペーンを繰り広げた。地域の保健関連の各省とも協力して、4100万人以上の子どもに予防接種を実施した。パトリックもこうして命の危険を遠ざけることが出来た一人である。

ゲイツ財団とのパートナーシップ

LCIFはビル&メリンダ・ゲイツ財団とパートナーシップを結び、はしか撲滅のパイロット・プログラムの拡大に取り組んでいる。ライオンズが2ドル寄付するごとに、ゲイツ財団が1ドルのマッチング寄付を提供する。ゲイツ財団では500万ドルの拠出を用意しており、これは単独の支援金としてはLCIF史上最大の金額となる。同プログラムでは今年、1億5700万人の子どもの命を守る計画である。

2011年にアメリカ・シアトルで行われたライオンズクラブ国際大会で基調講演を行ったゲイツ財団の共同会長及び理事であるビル・ゲイツSr.はスピーチの中でこう述べている。

「ライオンズの初期はしか事業のパートナーとして参加出来たことを、ゲイツ財団は大変誇りにしています。また、今後も継続して協力出来ることをとてもうれしく思っています。ライオンズのリードで共に進むなら、どれだけ世のために共に働けるか計り知れません」

はしか撲滅への道

はしかイニシアチブは、はしかによる死亡者を一人も出さないことを目標に、2001年に開始された取り組みである。当時はしかは、ワクチン予防が可能な疾患の中で最も死亡率の高いものだった。イニシアチブのパートナーたちは技術的、経済的及び草の根の支援により、予防接種キャンペーンを継続してきた。2011年の5月には10億人目の子どもが予防接種を受けた。80カ国以上の子どもたちが接種し、はしかによる死亡者数はほぼすべての国で9割減少した。今年は31カ国でキャンペーンが実施される予定である。

はしかイニシアチブではこれまでに7億ドル以上をはしか撲滅の活動に投じ、500万人の生命を救うことに役立ったと見積もられている。

そして今、ライオンズにはその取り組みを広げ、はしかが今でも公衆衛生上の大きな問題となっているすべての国の子どもたちを支援する機会を得ているのである。

「はしかイニシアチブは、LCIFにとって非常に重要な挑戦です。パートナーたちとライオンズが世界的規模で連携して進むなら、それぞれの専門知識を合わせて、更に大きな影響力を持つようになり、より多くの活動を行うことが出来ます。今、ライオンズは、はしかが失明と死亡の主要な原因であると認識している他の機関と協力体制を取っています。ゲイツ財団からの交付金は、そうした私たちの意欲を更に高めてくれます」(シド・L・スクラッグスⅢ世LCIF理事長)

はしかイニシアチブは最初の8年間ではしかによる死者を78%に減らすことに成功した。2020年までには、アフリカとインドではしかを撲滅するプランを立てている。

このプログラムを支援するために、LCIFはウェブサイトからのオンライン献金を受け付けている(www.lcif.org/donate)。献金はメルビン・ジョーンズ・フェロー(MJF)の対象となる。

また、ウェブサイトではプログラムについて学習したり、ライオンズのパイロット・プログラムにおける成功例のハイライト・ビデオも視聴することが出来る(www.lcif.org)。

ライオンズはこの夢を実現するために、1500万ドルを提供する。パトリックのように、一人でも多くの子どもたちが未来を手にすることが出来るように。

被災地のライオンズは今

岩手県宮古市内のライオンズクラブ

クラブ存続の危機を瀬戸際で踏ん張る

宮古市内には宮古岩手ライオンズクラブ（松田和夫会長／30人）と、そのスポンサーで結成された陸中宮古ライオンズクラブ（小野寺正二会長／42人）、田老ライオンズクラブ（佐々木松夫会長／14人）の三つのクラブがある。万里の長城に例えられる高さ10メートルの防潮堤を築いた旧田老町は、2005年に宮古市と合併した。度重なる津波の襲来を受けて、守りを固めてきた地域だったが、今回の震災により田老地区では187人、市全体で534人が犠牲になった。

宮古岩手ライオンズクラブでは会員の半数、陸中宮古ライオンズクラブでは3人が被災。鉄筋コンクリートの建物1階に借りている両クラブの合同事務局には土砂が流れ込み、クラブの記録や資料をすべて失った。その事務局が早い段階で再開出来たことで、他クラブからの支援受け入れがスムーズに出来たと、陸中宮古ライオンズクラブの澤田三夫幹事は言う。建物の復旧作業が終わり、地区の支援で備品をそろえて再開出来たのは6月のことだ。震災前に勤めていた事務局員は被災後、家族の世話が必要になって働けなくなり、新しい事務局員に佐々木幸子さんを迎えた。夏頃から例会を再開し、2回に1回は2クラブ合同で開催している。両クラブとも状況は厳しい。

震災後間もなく宮古に灯油を届けた青森県・むつライオンズクラブは、陸中宮古ライオンズクラブの仲介により、45周年記念の資金120万円で市内3小学校に和太鼓や体育用具などを寄贈した

「実質20人という会員を維持するのも精いっぱいなところに震災が起き、立ち直るきっかけをつかむのも難しいのが実情です。役員の受け手がなく、活動に参加出来るのも決まった顔ぶれで、それでも工夫しながら2年後の50周年までは踏ん張ろうと存続しています」と松田会長。332・B地区は家族会員制度を積極的に取り入れてきた地区で、現在は宮古岩手では10人が、陸中宮古では20人が子会員だ。陸中宮古は震災後、子会員11人を含む13人の新会員を迎えた。「厳しい状況はうちも同じですが、子会員を迎えて何とか持ちこたえているところです」と澤田幹事は話す。

田老ライオンズクラブの場合は更に深刻だ。震災前、14人（うち2人が子会員）まで減っていた会員のうち、ライオン佐々木正明を津波で失った。高台に暮らす会員3人は直接の被災を免れたが、他の会員たちの被害はいずれも深刻で、クラブ事務局を置いていたふるさと田老物産センターも跡形もなく流失。震災後、会員の半数が退会の意思を示し、もはやクラブの存続は無理だと思われた。

そんな時、昨年度の相原文忠地区ガバナーから、クラブ旗など流出した備品を提供する支援の申し出が寄せられた。更に国際会費と地区費の免除が決まったことから、今年度は何とかがんばってみようとクラブの存続を決めた。昨年の夏以降、地区の支援で出来たプレハブの仮事務所などで月1～2回の例会を開いてはいるものの、クラブとしての活動が出来る状態にはない。佐々木会長の元には県内外のクラブから支援の話が持ち込まれるが、辞退しているのだという。

「次年度以降もクラブが続けられるか、先が見えない状況で支援を受けるわけにはいきません。会員の半数は退会を望んでいる中、会員が半減した後に、残った会員で近隣のクラブに移り解散するか、クラブ支部という選択も視野に入れつつ、地区年次大会までには結論を出さなければと考えています」

厳しい決断を迫られる佐々木会長の声に苦渋がにじむ。

（取材／河村智子）

宮城県名取市内のライオンズクラブ

すべてを失った閖上地区を抱える名取の復興に向けて

名取市は宮城県中央部の南寄り、太平洋に面した市域東部には仙台平野が広がり、その一角に仙台空港がある。東日本大震災では、この平野を津波が襲い、死者911人、行方不明者56人（1月18日現在）という大きな被害をもたらした。特に、海に近い閖上（ゆりあげ）地区は人口5600人の1割を超す約700人が犠牲となった。

名取市には1968年結成の名取ライオンズクラブ（井坂剛会長／20人）と、2002年結成の名取つばさライオンズクラブ（相澤三千男会長／28人）がある。震災で名取ライオンズクラブはライオン斎藤英夫が亡くなり、ライオン斎藤の夫人と長女、ライオン芦名弘の夫人の3人が行方不明となっている。また、名取つばさライオンズクラブでもライオン高橋史光を失った。

クラブの拠点である事務局はJR名取駅から歩いて10分弱、国道4号線（奥州街道）沿いのロタビル2階に合同で設置している。仙台平野を覆った津波は仙台東部有料道路が防波堤となり、その西側にあったこのエリアは無事だった。そのため地震で室内はめちゃくちゃになったものの、建物自体に大きな被害はなく、今も継続使用している。が、例会場としていたイベントホール太陽は地震で損壊、立ち入り禁止となった。

名取つばさライオンズクラブは震災後最初の理事会、例会を4月7日に事務局で開いたが、この日夜遅く、震度6強という大きな余震があり、事務局はまた被害を受けた。その後、5月19日にタケノコの最北限地と言われる名取のタケノコ料理の店で合同例会を開催。これが名取ライオンズクラブとしての震災後初例会となり、クラブとして、復興へ向けて歩き出した。

そんな中、名取ライオンズクラブには姉妹提携をしている新潟県・村上ライオンズクラブや北海道・伊達ライオンズクラブ、群馬県・高崎ライオンズクラブが、名取つばさライオンズクラブにはやはり姉妹クラブの和歌山県・新宮ライオンズクラブが支援に動いてくれた。9月にはその新宮で台風被害があり、逆に支援を行い、ライオンズの友情を確認し合った。また、東京池袋ライオンズクラブが震災遺児のために100万円を寄託してくれ、名取つばさライオンズクラブの仲介で、名取市の遺児80人に対する奨学金に貢献することが出来た。

更に今年度に入り、クラブ独自に閖上地区の青少年に剣道の防具を寄贈したり（名取）、11月に開催された復興祭には名取ライオンズクラブがチャリティー・バザー、名取つばさライオンズクラブがフランクフルトや玉こんにゃく、牛タンの露店で参加。両クラブでは今後も、名取の復興に向け、特にお年寄りと子どもを中心に、支援をしていきたいとしている。

（取材／鈴木秀晃）

名取ライオンズクラブは厳しい冬を前に、LCIFの支援により電気カーペット2千セットを仮設住宅の居住者に寄贈した
写真提供：ライオン中澤勝己（名取つばさライオンズクラブ）

■国際理事会アポインティー
山田實紘
（岐阜県・美濃加茂）

ニーズに応えるアクティビティこそ最も有効なPR

日本が未曽有の大震災に襲われてから早1年が過ぎようとしております。この間、世界中のライオンズの仲間から多くの支援を頂き、ライオンズクラブ国際協会の存在意義が改めて浮き彫りになりました。

さて、私はウィンクン・タム国際会長により国際理事会アポインティーに任命され、以前、国際理事に就任しておりました時に執行委員会に所属していた経験もあり、多少図々しく余裕を持って務めさせて頂いております。

現在私の所属しておりますPR委員会は、いかにライオンズクラブ国際協会の名を世界の隅々までとどろかせ、知名度を向上させていくかをテーマにしています。今までは、ライオンズの看板を多く上げようといった、言わば旧態依然とした考え方でPRしていましたが、以前から私が提案して参りました「ライオンズにノーベル平和賞を」という理念を再度強力に推し進め活動しています。ノーベル平和賞受賞が実現すれば、世界のすべての人々がライオンズクラブの存在を知ることとなり、それに伴う影響力は計り知れないものがあるでしょう。

また、約百年の歴史あるライオンズクラブが創設初期の頃から続けてきた視力保護関連のアクティビティにも、変化をもたらすべきであると考えております。「ライオンズクラブ知ってる?」と質問すると、「ああ、知っているよ。あの視力障害の人を助ける会でしょう」という返事が多く返ってきます。我々ライオンズは視力のみに特化しているわけではありませんが、そのイメージが強すぎて、その他の多くのすばらしいアクティビティが埋もれてしまっているのが現状です。100人に1人の障害を持つ人のための活動も必要ですが、100人中100人が必要性を感じていることへの救済にも目を向けるべきだと感じております。

実際、タム国際会長の100万本の植樹キャンペーンは既に目標を優に超えており、今後ますます膨れ上がる勢いを見せています。老若男女を問わず100人が100人とも直接自分の身にかかわってくる、地球環境保全に向けての取り組みであるからこそ、大きな輪となって成長しているのだと確信しております。

これまでも協会は公認奉仕アクティビティの一つに環境保全を挙げてはいましたが、あまり前面に押し出すことはなかったように思います。今年度、国際会長自らのテーマにこの長期的視野に立った国際的関心事を明示したことは、大きな変化の始まりと言えるでしょう。

前年度を踏襲しマンネリ化したアクティビティを行っているだけでは指導力を失ってしまう、ということは至極当然です。出来得る限り地元コミュニティーのニーズを察知し、その中からライオンズ・スピリットにのっとったアクティビティを選択する必要があります。要望があるけれども行政の手が行き届いていないところに光を当てるのがライオンズの使命です。地域から愛され、頼られるライオンズへと発展し続けていくことが最も有効なPRと考えます。

ライオンズニュースカセット

NEWS CASSETTE

はしか撲滅に挑む「ライオンズはしかイニシアチブ」

1月30日、東京・千代田区のホテルニューオータニにおいて、「ライオンズはしかイニシアチブ・セミナー」が開催された。「はしかイニシアチブ」は、ユニセフ、WHO、国連財団、国際赤十字、ノルウェー外務省、日本の国際協力機構（JICA）など合計19団体がパートナーシップを結んで取り組むはしか撲滅計画で、民間団体として加わっているのはLCIFのみ。この活動のためにLCIFはアメリカのビル＆メリンダ・ゲイツ財団と提携。2011年10月の香港国際理事会において、ゲイツ財団からの500万ドルに対し、LCIFが2012年6月末までに1千万ドルを集めることを決定した。これを受けてゲイツ財団からは500万ドルが寄付され、更にキャンペーン費用として25万ドルが提供されている。

この日のセミナーは、はしかイニシアチブへの理解と協力を求めるためにLCIFが開いたもので、山浦晟暉、高田順一、秦従道各国際理事と山田實紘国際理事会アポインティー、秦三郎LCIFナショナル・コーディネーター、330～337複合地区の各議長と各地区ガバナー、複合地区及び地区のLCIFコーディネーターが出席した。ライオンズはしかイニシアチブに関する説明はLCIF資金開発課の田辺憲雄課長から行われ、主にアフリカにおけるはしかの現状（今月号18ページに関連記事あり）や、LCIFとしては日本で300万ドル、韓国と台湾でそれぞれ100万ドルの協力を目標としていること、12年6月末までの期間限定で、はしかがMJF献金の用途指定対象分野となることなどが説明された。

国内全地区のガバナーが集った全国地区ガバナー会

1月30日、LCIFが開催したライオンズはしかイニシアチブ・セミナーに先立ち、同会場で全国地区ガバナー会が開催された。今年度後半に入り、各地区のこれまでの活動や抱えている課題などについて話し合うため、昨年7月の地区ガバナー・エレクト・セミナーでグループ・リーダーを務め、今年度地区ガバナーのメンターを務めている山田實紘国際理事会アポインティーの呼び掛けで開かれたもの。35地区すべてのガバナー（代理出席を含む）が集い意見を交換した。会の終盤には、グローバル会員増強チーム（GMT）によるプレゼンテーションがあり、西日本担当GMTリーダーを務める高田順一国際理事からは6月末の大量退会への対策について、『クラブ向上プロセス（CEP）』やGMTチームが作成し提供している『クラブサクセス・ワークショップ』を活用して、退会防止に力を尽くしてほしい」と述べて、各地区が年度末を会員純増で迎えられるよう、地区ガバナーの積極的な取り組みを促した。

地区間の復興支援を円滑にするマッチング・システムの活用

東日本大震災で大きな被害を受けた332-B（岩手県）、332-C（宮城県）、332-D（福島県）各地区に対するその他の地区からの支援が、現地のニーズに合わせて偏りなく行われることを目的に、東日本大震災復興支援対策本部は複合地区ごとに被災3地区への支援担当地区を割り当てるマッチングを行っている。332-B地区には331、336複合地区内の各地区、332-C地区には334、335、337複合地区内の各地区、332-D地区は330、333複合地区内の各地区が担当するという割り当てだ。

332-B地区（高橋晴彦地区ガバナー）はこのマッチング・システムを活用し、LCIF用途指定交付金による支援を受けた復興屋台村のオープニング・イベントのため、331、336複合地区内の地区ガバナーに協力を求め各地の農産物や特産品の提供を依頼。これに応えて331-B地区からはニンジン、タマネギ、ジャガイモ計1400キロ、336複合地区内からは徳島、愛媛、高知、島根、山口各県のクラブからミカンやサツマイモ、タオルなどが寄せられた。釜石の仮設飲食店街がオープンした1月27日には、各店舗でこれらの食材を使った料理や飲み物を無料で提供したり、来店した客にミカンを振る舞うなどして、被災地に元気を取り戻す屋台村の開幕を盛り上げた。支援物資は既にオープンしている大船渡屋台村にも届けられ、それぞれの店舗で活用されている。

高橋ガバナーはこの地区間のマッチングについて、「被災地の復興にはまだまだ長く厳しい道のりが続きます。今後も被災地区から直接情報を発信して、各地区のご支援をお願い出来るよう、このマッチングによるネットワークを生かしていければと考えています」と話している。

第25回平和ポスター・コンテストのテーマは「平和を想像しよう」

国際協会の青少年プログラムの一つ、国際平和ポスター・コンテストは、世界各地のライオンズクラブが小学校などでコンテストをスポンサーし、毎年35万人の子どもたちが平和について考える機会を提供している。第25回目となる2012年のコンテスト・テーマは「平和を想像しよう（Imagine Peace）」と発表された。コンテストをスポンサーする際に必要な応募キットは、ライオンズクラブ国際協会日本事務所（TEL：03-3494-2931 FAX：03-3494-2933）で販売される。

MJF献金の際は必ず用途指定を

昨年10月の香港国際理事会において、LCIFのメルビン・ジョーンズ・フェロー（MJF）の表彰は指定5分野への献金を対象とすることが決議された。これを受けて、MJF献金の際には用途指定をすることが必要になる。指定対象は次の五分野。

①最もニーズの高い分野：以下の4分野をすべてサポートするもので、LCIFの判断により、各分野においてその時々に優先的対応が必要とされる事業・活動に対し、柔軟な資金援助を可能とする

②災害：災害の発生後、救援・復興に向けた即時～

中長期にわたる援助活動を支える。個々の災害別ではなく、あらゆる災害が対象であるため、活動原資を個別に数週間、あるいは場合によっては数カ月掛けて確保する必要がなく、大規模災害に対しても直ちに必要な資金を投入することが出来る

③視力：眼科診療施設における設備機器の導入から視覚障害者への点字コンピューターの提供まで、幅広い視力関係活動を資金面で支える

④青少年：ライオンズクエストとその他のイニシアチブ（教育インフラの改善や非行に走る可能性のある青少年を支援するプログラム等）

⑤人道：「視力」「災害」及び「青少年」以外の分野で地域社会のニーズを満たす事業（井戸掘削、障害者用職業訓練プログラム等）に資金を提供

ただし現在は、２０１２年６月30日までの期間限定で「はしかイニシアチブ」が特別に対象分野となっている。ＭＪＦ献金の際には、ＬＣＩＦ献金報告用紙の該当項目で５分野から一つを選んで記入する。「はしかイニシアチブ」を指定する場合は同用紙の特記事項欄に記入。なお、指定がない場合には「最もニーズの高い分野」を指定したものと見なされる。

国際本部・太平洋アジア課発――

オークブルック通信

国際色豊かな国際本部スタッフ

協会の心臓部とも言える国際本部では、国際色豊かな約250人のスタッフが働いている。今回は本部の雰囲気を伝えてもらおうと、いくつか質問を投げ掛けてみた。

Q. 国際本部全体で日本人スタッフは何人いますか？

日本人（厳密には日本語を母国語として使える職員）は9人。うち2人がLCIF、6人が太平洋アジア課に属し、1人はエクステンション及び会員部・PR及びコミュニケーション部・奉仕事業部の統括部長の職にあります。

Q. 地区及びクラブ行政部、太平洋アジア課の構成を教えてください

地区及びクラブ行政部内の業務は、地区やクラブの運営を支援するための事務手続きの遂行と、12の公式言語でのサービス提供で、部内には四つの課があります。ユーロアフリカン課は8人でドイツ、フランス、フィンランド、イタリア、スウェーデンの各言語のいずれかを話す職員。イベロアメリカン課は8人でスペイン語とポルトガル語を解する職員。私たち太平洋アジア課は10人で中国語、日本語、韓国語。最後に英語課は7人で、アメリカ人の職員ですが、インドが母国でヒンディー語も理解する職員も含まれています。その他に課に属さない職員が部長を含め3人います。

Q. 多様なルーツを持つスタッフが働く事務局内はどんな雰囲気でしょう？

シカゴは大都市ですが、アメリカ中西部はニューヨークや西海岸と比べて国際色豊かとは言えない土地柄です。そんな中西部にありながら、国際本部で働くスタッフの人種や背景は多様です。情報システム部は近年どんどん国際色が豊かになって、中国、インド、中近東、ロシアなどの出身者が増えています。イスラム教徒の職員は小さな会議室で日に3回お祈りをしているのですが、ふと会議室に目をやった時、ひざまずいている男性がいてびっくりすることもあります。その中でも各公式言語への翻訳と通訳を担当する地区及びクラブ行政部は、いちばん国際色が豊か、というか、職務上それぞれの国の文化を自覚的に強く意識しているところがあります。各通訳のブースの角には国旗が飾られ、何かしらその国らしいものが置かれています。

クリスマス前になるとランチの時間に各部や課でホリデー前のちょっとしたパーティーを行うのですが、地区及びクラブ行政部では数年前から、各課ごとに料理を持ち寄ってポットラックパーティーを開いています。各課がその国ならではの料理を用意するので、その様子はかなり国際色豊か。太平洋アジア課はちらしずし、韓国の焼きそば「チャプチェ」、中国の包子や餃子などが定番。ヨーロッパのテーブルにはチーズやオリーブ、スウェーデン風ミートボールなどが並びます。その他にもインドのベジタリアン料理や、スペインのデザートなど、各国の味が楽しめる楽しい行事です。

1月承認の視力ファースト、ライオンズクエストの交付金

1月に開かれた視力ファースト諮問委員会で、16件総額573万1646ドルの視力ファースト交付金が承認された。交付を受けたのはブラジル、カンボジア、カメルーン、中国（2件）、キューバ、インド（4件）、レバノン、マダガスカル、パラグアイ、ペルー、ベトナム、イギリスにおけるプロジェクト。中国では中国保健省や地元ライオンズと取り組むトラコーマ撲滅プロジェクト第1段階に175万ドル、キューバではハバナの中核病院の未熟児網膜症プログラム改良と備品購入に12万8669ドル、イギリスでは「コミュニティー・アイヘルス・ジャーナル」（184カ国3万人のアイケア従事者に無料配布）中国語版の支援に1万5500ドルが交付された。

ライオンズクエスト諮問委員会では、10件38万2345ドルの四大交付金を承認。グアテマラでのパイロット・プログラムなど8カ国に交付され、日本には332-D地区（福島県）、336-C地区（広島県）、337-B地区（大分県・宮崎県）のワークショップ開催にそれぞれ2万5千ドルが交付された。最新の交付金リストはLCIF公式サイト（www.lcif.org）に掲載。

会議録

第5回ライオン誌日本語版委員会（1月10日／ライオン誌日本語版事務所／出席者：秦従道、高田順一各国際理事、宇田川雄弘、後藤忍、種市一二、高濱正敏、矢口武克、竹本實生、小田邦雄、澁田繁晴各委員、小峰理孝議長、髙橋晴彦〈オンライン〉、中嶋慶次〈オンライン〉、久保田善九郎〈オンライン〉各地区ガバナー、荘英隆、辰巳博昭〈オンライン〉、小柴登司〈オンライン〉各ITアドバイザー）①被災地地区ガバナーとのウェブ・ミーティング打ち合わせ②ライオン誌日本語版事務所の運営③2012年5月号以降の本誌印刷会社選定④被災地地区ガバナーとのウェブ・ミーティング⑤2012年1月号（10万3200部発行）出来⑥2月号記事内容の確認⑦3月号以降台割（案）と主要記事予定⑧その他

新結成／名称変更／解散

■解散クラブ

（2012年1月）山口県・錦

■新結成クラブ

2月号本欄掲載の岐阜東ライオンズクラブの名称は、岐阜あかつきライオンズクラブとなりました。

訃報

■元国際役員

ライオン矢部四郎（東京霞ケ関）

1月22日死去、90歳。67年入会。79年度330-A地区ガバナー。02年の大阪国際大会で国際理事に就任。協会の最高の栄誉である国際親善大使賞を受賞している。

ライオン松本勤（徳島西）

1月4日死去、79歳。04年度336-A地区ガバナー、05年度336複合地区ガバナー協議会議長。

ライオン松本喜久也（愛知県・安城）

1月17日死去、87歳。94年度334-A地区ガバナー。

■献眼

12月＝ライオン川岡美壽榮（長崎県・諫早センチュリアン）

国際大会開催予定

12年：韓国・釜山／6月22日～26日

13年：ドイツ・ハンブルク／7月5日～9日

14年：カナダ・オンタリオ州トロント／7月4日～8日

15年：アメリカ・ハワイ州ホノルル／6月26日～30日

16年：日本・福岡／6月24日～28日

17年：アメリカ・イリノイ州シカゴ／6月30日～7月4日

第95回国際大会の開催地、韓国・釜山の繁華街ソミョン

ロシア

奉仕に燃えるロシア人

学童に奉仕するロシアのライオンズが大きな話題を呼んでいる。ソチ・サニー ライオンズクラブは、ソチ第87学校の生徒にペン、文具、衣類などの必需品を提供した。123地区のエレナ・カラセバ元地区ガバナーは次のように語る。

「子どもたちも両親もとても喜んでくれて、涙を流す大人もいたほどです。このような出来事は学校始まって以来のことでした」

学校関係者も注目し、民生委員でもある校長はライオンズに関する講義を設けることにした。年長の生徒10人が入会情報を求め、誰もがライオンズとその活動について詳しく知りたいと願うようになった。

ロシアのライオンズクラブはまだ比較的新しく、最初のクラブは1990年にモスクワで結成された。同じ志を持つ人々がクラブを通して地域社会に奉仕する、という考え方は、多くのロシア人にはなじみのないものである。

「ロシアにおけるライオンズの活動は始まったばかりで、それを広めるには大きな努力が必要です」とライオンカラセバは言う。彼女は旅行代理店の店長で、夫もライオンズの会員である。彼女が地区ガバナーを務めた2010-11年度には、地区内に二つのクラブが結成された。三つのクラブがそれぞれイスラエル、ポーランド、ドイツのクラブと姉妹提携している。

123地区のライオンズは、聴覚障害児に補聴器を提供し、障害者のフェスティバルを主催し、植樹を行い、病気の児童を介護し、高齢者に必需品を提供している。ロシアには22クラブ、343人の会員が在籍している。

ソチはモスクワから真南に千マイルの黒海に面する保養都市であり、2014年には冬季オリンピック大会が開催される。ソチ・サニー ライオンズクラブは2001年6月に結成され、会員23人のうち22人が女性、1人が男性である。

ニュージーランド

砂浜で賞品を掘り当てよう

ニュージーランド北東部の海に面したギズボーンは、毎朝世界で最も早く日が昇る町である。2000年の元旦には、新たな千年紀の日の出を見ようと数千人がミッドウェイ・ビーチに集まった。

このビーチでは年に一度、やはり数千人が集まり壮観な光景となる。それはワイヌイ ライオンズクラブが開催する熱狂的な砂掘り大会で、昨年は参加者約4千人が猛然と砂を掘り返した。賞品と交換する小さな黄色のタグを探し出すためである。

「開始の掛け声までに、3、2、1、と秒読みする瞬間がだいご味です」

10年前に父親からこの行事の進行役を引き継いだケン・ヒューバートは語る。父のジェリー・ヒューバートは1982年に、ギズボーンで初の砂掘り大会を主催した。現在、この町には3万5千人が暮らしている。

砂掘り大会は1月に行われ、この時期はニュージーランドでは夏に当たる。1200枚のタグを探して参加者が手で掘り始めると、辺り一面に砂煙が舞い上がる。黄色のタグは、浜辺に10センチほどの深さで埋められている。通常は羊や牛の追跡に使われる耳標で、1枚につき2ドルの料金が課せられる。

タグにはそれぞれ通し番号が付けられ、砂掘りが終わるとアナウンサーが賞品を発表する。テレビ、カメラ、携帯電話などの大物を勝ち取る参加者もいれば、映画のチケット、プールの入場券、スナックなどのささやかな獲物に甘んじる人もいる。

pick up
ピックアップ

女性会員

女性や若い会員が、能力を発揮出来る組織を目指す

ライオンズクラブにおいて会員を増やして奉仕の輪を広げていくことは創設当初からの継続的課題である。特に近年重点を置くのは若手と女性会員の増強だ。国際会則が改正され女性の入会が認められて25年。今年度のウィンクン・タム国際会長は、現在23・5％になった女性会員を男女の人口比である51％まで増やそうと言及している。一方、日本ライオンズの女性会員は11・1％と平均を大きく下回る。そうした現状の中、2012年度は日本の35準地区中3地区で女性ガバナーが就任する予定で、同じ年度に複数の女性ガバナーが就くのは初めてのことだ。この機に女性会員の増強、役割の拡大をと期待が膨らむ。（構成／柳瀬祐子）

■出席者：L長澤千鶴子（千葉県・柏なの花ライオンズクラブ／333・C地区第1副地区ガバナー）
L瀧北美智子（兵庫県・姫路さくらライオンズクラブ／335・D地区第1副地区ガバナー）
L松井和子（福岡花ライオンズクラブ／337・A地区第1副地区ガバナー）
■司会者：L後藤忍（北海道・函館グリーン ライオンズクラブ／ライオン誌日本語版編集長／東日本担当GMTリーダー）

大きなうねりとなるか女性会員の潮流

後藤　本日はお忙しい中お運び頂きありがとうございます。さて、2010年に国際協会の主催で13人の女性会員による「日本女性会員ワークショップ」（以下女性WS）が開催されました。更にこの方たちが発起人となり、昨年10月には333・C地区主催で「日本ライオンズ女性会員フォーラム」（以下女性フォーラム）を開催しました。皆さんは女性WSに参加した13人の中の3人であり、更に現在第1副地区ガバナーでいらっしゃいます。そこで二つの会合で感じた気運や、次年度ガバナーとして取り組む会員増強の展望などを伺いたいと思います。

長澤　女性WSでは若者と女性会員の増強についてアイデアを出し合いまし

た。地区も年齢もライオンとしてのキャリアもバラバラで初対面の人も多かったのですが、大変濃密で刺激的で貴重な体験となりました。こんなすばらしい機会を与えられたのだから今後につなげなければと、女性フォーラムが実現しました。今回は333・C地区が主催し、年齢・性別を問わず全国に呼び掛けたところ、予想以上に関心が高く、参加者は男性1割を含む226人にもなりました。国際本部でも注目され、ウィンクン・タム国際会長の指示で2人の女性国際理事が視察にいらっしゃったのです。10人位に分かれて行ったグループ・ディスカッションでは、皆が積極的に発言をし、また意見を聞き、交流が生まれました。

瀧北　あの会場、すごい熱気でしたよね。リーダーシップを備えた人が大勢いました。あれは氷山の一角でまだまだ逸材が埋もれているはずです。上の人に言われたから参加したという人も、「ほんとうに来て良かった」と言っていました。自分のクラブ以外のメンバーと話し合う機会を得て、他クラブを知り、自分のクラブを客観的に見ることも出来るようになります。

松井　引き続き次年度は337・A地区が主催することが決まっています。以降も各地区持ち回りで毎年開催していけ

るといいですね。

長澤　会場で得た熱を保つには年に1回では間隔が空きすぎるかもしれません。大規模なものを頻繁に開催するのは難しいので、地区やリジョン単位でも同様のフォーラムやセミナーを開催して頂き、それに参加するなど、気持ちが途切れないようにする工夫が必要です。

世界の壁に挑む

後藤　今年度、34人の国際理事のうち女性が4人（11・8％）、世界の地区ガバナーは747人中149人（19・9％）、会員は約135万人中32万人（23・5％）が女性です。一方、日本の女性会員の割合は10万5千人中1万2千人弱（11・1％）と世界の半分以下にとどまっています。

ライオン松井和子

瀧北　335‐D地区は女性会員の割合は日本の平均程度ですが、徐々に増えています。役職に就いている人もたくさん居ます。ただ私もそうですが、女性会員のほとんどは女性クラブの所属で、男女混合クラブは多くありません。これからは混合クラブも増やして、男性、女性、混合、それぞれのクラブの特色を生かしていければと思います。

ライオン瀧北美智子

松井　九州では男尊女卑の意識がまだ一部に残っていると感じます。女性会員を入れたくないというクラブもあります。でも私が役職に就きクラブを訪問すると、「女性でもなれるんよね」と観念が変わったという女性会員や、「私もがんばりたい」と駆け寄ってきてくれた若い子もいました。地区内にはすばらしい女性がたくさん居ます。そうした方たちが夢と希望を持って、どんどん前に進んでいけるようにしたいのです。

長澤　うちの地区にも女性の入会を拒むクラブがあります。

瀧北　それも個性ということで、中にはそういうクラブがあっても良いのではないでしょうか。

後藤　男性の意識改革が必要ということかな。

長澤　私は3年前に地区女性会員増強委員長を務め、その時に5年で地区内女性会員を世界レベルにという目標を立てました。現在16・7％で残り2年。毎年クラブと支部が三つずつくらい結成されていて、ほとんどが男女同数程度の混合なので、今のペースでいけば実現可能です。

　また支部は若い会員の育成と世代の継承という点でも成功していると言えます。例えばメンバーのご子息や、若い人を新会員として得て結成された支部があります。親クラブの指導を受けつつ、独立して活動や例会、会費などを若い人に合わせて設定することが出来ます。支部が成熟したら単一クラブとしてエクステンションすることも可能です。

松井　クラブ支部プログラムには私も注目しています。残念ながら337‐A地区にはまだクラブ支部がないのですが、今後ぜひ取り組んでみたい。

後藤　若い人や女性は仕事や子育てがクラブ活動に参加する際のネックになることもあるかと思いますが、どんな解決策があるでしょうか。

松井　一つは例会の時間帯を選ぶこと。子どもが学校に行っている人は昼、仕事をしている人は夜が参加しやすい。もう一つは会費。安く設定して、余裕がある人にはドネーションで出してもらえばいい。この時、多額の拠出が出

来ない人が肩身の狭い思いをしないようにすることが大切です。労力でも知識でも金銭でも、その人が持っているものを持ち寄って奉仕出来ればいいと思います。

瀧北　高い会費を設定しているクラブに所属していることに誇りを感じる人もいます。安い会費でりっぱに活動しているところもある。バリエーションを増やして、入会希望者にクラブを紹介する時にはその人に合うクラブを見極めることが重要でしょう。あとはクラブ内で男性と女性、熟年層と若い人など、考え方が異なる人がお互いの意見に耳を傾けてうまくマッチさせていくこと、リーダーが良い方向にクラブを導いていくことが、あらゆる問題解決の基本だと思います。

次期ガバナーとしての展望

後藤　次年度は女性ガバナーが3人も誕生するということで、その活躍に日本全国が期待をもって注目しています。皆さん、若手会員、女性会員の増強にも取り組まれると思いますが。

松井　社会には人のために何かをしたいと思っている主婦はたくさんいます。女性担当委員を決めて、女性が入りたいと思うような活動・イベントを開催したいと思っています。あるクラブが川の清掃と鯉の放流をしていて、子どもたちも毎年楽しみにしてくれているのですが、ある時一人の子が「おじさん、僕もライオンになりたい。どうしたらなれる?」と聞いたのだそうです。人を呼び込むには、共感と感動、感銘を生む奉仕活動が必要なのだと確信しました。また例会も心から「楽しかったね」と言えるような会合にすることが会員維持にも会員の成長にもつながると思います。

瀧北　役職はローテーションではなく適正のある人が就けるように、少しずつでも古い体質を変えていきたいと思います。特にゾーン・チェアパーソンにはやる気のある若い人を選ぶようクラブに交渉します。ゾーン・チェアパーソンの役職はガバナーになるのに必要な資格の一つですから、将来のガバナーを発掘するくらいのつもりでいます。335・D地区はガバナーに立候補する人が少ないので、若手や女性もチャンスをつかみやすいと言えるかもしれません。

ライオン長澤千鶴子

松井　私も、年齢だけでなく心が若い人を含め、ターゲットを広げてとにかくやる気がある人を引っ張り上げたい。そして役職を決める時には知らないうちに上の方で決めてしまうのではなく、オープンにして会員一人ひとりの意見を大切にしていきたいと思います。

ライオン後藤忍

長澤　333・C地区では、地区青年会員増強委員長にレオOBの若い女性を、副委員長に同じくレオOBの若い男性2人を予定しています。若い人を招請するのは若い人に任せるのが良いでしょう。他にも各委員会副委員長の大半を女性にすることを考えています。副は委員長よりも保守的な方たちの抵抗が少ないかと。女性の地区役員は今までの倍になります。こうした経験を通してリーダーとなる女性会員が育っていくことを期待しています。

後藤　皆さんの活躍に女性たちが勇気を得て、また古風な男性に意識の変化をもたらして、女性リーダーが継続的に輩出されていくようになることを願っています。本日は大変力強いお話を聞かせて頂きありがとうございました。

CLUB REPORT
クラブ・リポート

●当欄はライオンズ、レオ、ライオネスの活動報告を扱います。投稿要領は54ページ参照

山口県・新南陽若山ライオンズクラブ

伝統文化を次世代に伝える「若山塾」

写真／明人

国を守るために英霊となられた方々を祭る永源山山頂の富田護国神社の清掃を、遺族会から新南陽若山ライオンズクラブ（23人）が引き継いで7年になります。日本の伝統文化や歴史を後世に伝承することも使命ではないかと考えていた我がクラブでは、これを契機に地域の子供育成会に働き掛け、毎年12月23日の天皇誕生日に青少年育成のための道場と位置づける活動を開始しました。今年で第6回目を迎える青少年育成奉仕活動「若山塾」の始まりです。

今年は時折雪の舞うとても寒い日でしたが、予定通り、児童38人、幼児6人、保護者25人、クラブ会員16人が永源山山頂にある新南陽護国神社へ集まりました。

開校式に続き、児童と父兄は境内清掃、会員はしめ縄作りと豚汁の準備に取り掛かります。清掃後、児童たちは会員の指導で玄関飾りに挑戦し、立派に出来上がったお飾りは各家庭で正月に飾ってもらいます。最近は家族連れが増えて会話も弾み、思わぬ成果に子供会も積極的に参加してくれるようになりました。しめ縄・輪飾り用のわらは会員が早くから準備し、しめ縄は鳥居と社殿用に2本を架け替えていますが、その腕前も年々上達しています。

作業の後はおにぎりと豚汁の昼食で、特に寒い中での豚汁は絶品です。昼食後はクラブが取り組んでいるアイバンクと盲導犬のビデオを上映し、閉校式となりましたが、今年は小学1年から参加してきた児童が卒業を控えており、うち皆勤だった3人を表彰し、全員に修了証書を渡しました。震災後「絆」が見直されていますが、奉仕を通して伝統文化や達成感等を体感してもらうことが青少年育成につながると信じ、この活動を続けています。汗を流す奉仕をモットーにしている当クラブ会員も、若いエネルギーを頂いてますます若返っています。（会長／山田圭子）

奉献
新南陽連合

岩手県・宮古岩手、陸中宮古ライオンズクラブ

日本一の大熊手で被災地に福をかき込む

11月の酉の日、東京・浅草の長國寺は福をかき込む縁起熊手を求める人々でにぎわう。その山門を飾る大熊手が、被災地に福をかき込もうと、岩手県宮古市に贈られた。400年の歴史で、大熊手が寺の外に出たのは初めてのこと。東京浅草ライオンズクラブ会員である井桁凰雄住職の提案が実現し、12月19日の酉の日に、宮古岩手（松田和夫会長／30人）、陸中宮古（小野寺正二会長／42人）両ライオンズクラブ主催で奉納セレモニーが開かれた。事業を企画したのは、東京都内の会員有志で作る「三陸鉄道さくらプロジェクト」だ。東京日本橋ライオンズクラブが宮古市へ支援物資を送るなどの活動を続けてきたのに賛同した会員が集まり、復旧を目指す三陸鉄道の沿線に桜を植える計画を立案。大熊手の寄贈はプロジェクトのオープニングを飾るものだ。

大熊手は高さ4・7メートル、幅2・4メートルと日本一の大きさで、宝船をモチーフにしている。JR宮古駅前の商業施設「キャトル宮古」のホールに設置され、除幕を前に井桁住職により厳粛な法要が営まれた。セレモニーでは、会場の市民に「かっこめ熊手」と呼ばれる長國寺のミニ熊手100本をプレゼント。地酒やおしるこも振る舞われ、ステージでは民謡やスコップ三味線などのアトラクションが披露された。この日は最高気温1度という寒さだったが、司会を務めた落語家の桂枝太郎さん、震災後炊き出しを続ける復興食堂・鍬ケ崎衆の会らボランティアの協力で温もりのある催しとなった。

「三陸鉄道さくらプロジェクト」は地元のライオンズと連携して今春から沿線の植樹に着手する。また長國寺では来年以降も大熊手の寄贈を続け、宮古の復興を後押しすることにしている。

（取材／河村智子）

栃木県・宇都宮友愛ライオンズクラブ

東日本大震災支援

イラスト／篠田和夫

宇都宮友愛ライオンズクラブ（石野正会長／32人）は6月、8月に続く第3回目の支援活動として、岩手県大槌町安渡地区の被災された方々に支援物資を届けた。

季節が冬に向かうことを考慮して、10月上旬から準備していた防寒具と石油ストーブ、そして直前に宇都宮市場で購入した野菜や卵、魚の缶詰、雑貨等を積み込み、11月19日の午前5時、現地に向けて出発した。これらの品々はクラブ内外のメンバーの協力で調達出来たものである。

午後2時に大槌町仮役場に到着。平野総務部長に、星宏信333-B地区ガバナーと宇都宮中央、宇都宮西両ライオンズクラブからお預かりした義援金を手渡した。平野部長からは現在までの生々しい苦闘の日々を聞かせて頂いた。時々の表情には言葉では表現しきれない恐怖や苦しさ、悲しさが感じられ、私たち全員目頭が熱くなり、今回のアクティビティに参加出来たことに感謝した。

3時を過ぎてやっと昼食となり、オープンしたばかりという、町で被災後初のテントのレストランに飛び込んだが、「本日の食材はすべて使い切ってしまった」とのこと。隣町の食事処で食べ物を口にしたのは4時だった。

それから倉庫とされている民生委員の方たちのお宅2カ所に物資を届けた。

その晩は釜石のホテルに宿泊し、20日朝8時半、再訪を心に決め現地を出発。夕方7時に無事、宇都宮に到着した。

（支援物資委員長／前田道男）

長野県・佐久ライオンズクラブ

被災地の新1年生にランドセルを寄贈

それは1本の電話から始まった。宮城県・大衡エコーライオンズクラブの丑田睦男から「支援先の仮設住宅に暮らす来年度入学児にランドセルを12個寄贈して頂けないか」と。丑田のご長男夫妻が佐久に勤務されているご縁で、佐久ライオンズクラブ（小林晨会長／46人）ではその奥様を中心とした婦人グループの支援活動をお手伝いしていた。ゾーン内でも声を掛けたところ、軽井沢、臼田、望月の各クラブを始め多くの方からご協力頂き、依頼を超える16個のランドセルを用意することが出来た。幸い佐久には手作りランドセルの製造会社があり、とても素敵なランドセルがそろった。また、佐久市立野沢小学校5年生の皆さんからは応援メッセージも頂いた。

これらを子どもたちに直接手渡したいと、12月4日、メンバー11人で気仙沼市を訪れた。ランドセル寄贈を兼ねた新入学児童激励会を開き、支援先家族らとの懇談、昼食会も行った。会にはご多忙の中、中嶋慶次332-C地区ガバナー、佐々木秀雄地区幹事、菅原勝直地区会計がご出席くださった。サンタに扮したメンバーからランドセルと文房具そしてクリスマス・プレゼントの入った袋をもらった子どもたちは、早速背負い、喜んでくれた。

「子どもたちはつらい経験をしてまだ心に傷を負った状態ですが、このランドセルを頂いて、入学を楽しみに待つことが出来ます」

というごあいさつに、一同、目頭が熱くなり、今後長く支援を続けていこうと意を強くした。

現地で奮闘されているライオンズの皆様、ありがとう。遠く離れていても我々の心は共にある。

（前会長、復興支援委員長／中村通）

大阪府・堺陵東ライオンズクラブ

東日本大震災被災者支援

堺陵東ライオンズクラブ（西谷昌幸会長／34人）は東日本大震災発生後、3月19、20日に募金活動を実施。たくさんの方から120万円余の浄財を頂いた。更にクラブ全会員の協力や募金箱の設置などで、5月末時点では累計436万円に上った。

新年度を迎え次段階の支援を模索していた折、一枚の新聞記事から、福島県浪江町で被災され、避難先の堺市で被災者のネットワーク「みちのくの会」を立ち上げた吉川裕子様を知った。早速お話を伺うと、慣れない地で心細い思いをされている被災者の方が多いという。そこでその方たちに少しでも安らぎの時間を提供しようと、「東日本大震災被災者支援アクティビティ」を企画した。

第1弾の生活支援活動は9月24日、被災者の方が必要とされている日用品を集めてお配りした。

そして10月9日には30家族80人を「堺・緑のミュージアム　ハーベストの丘」へお招きした。初めは緊張していた方たちも、緑あふれる自然の中で次第に笑みがもれてきた。

昼のバーベキューではメンバーも一緒に会話したり、肉を焼いてもくもくと出る煙をよけながら楽しい時間を過ごした。この活動でたくさんの方とご縁が出来、被災者の方同士の輪も広げることが出来たと思う。参加者を代表して高橋未知子様から心に響くお礼のお言葉を頂いた。

「奉仕なくして進歩なし」。このご縁を次につなげていきたい。

今回、みちのくの会や堺市、ハーベストの丘の皆様に多大なご協力を頂いた。また読売新聞や地元紙にも記事が掲載され、ライオンズのPRにもなった。これからも更なる奉仕活動に向けクラブ一丸となり「We Serve」の精神でがんばっていきたい。

（PRライオンズ情報IT、会報編集委員長／南釀人）

奈良セントラル ライオンズクラブ

きららの木との交流会

奈良セントラル ライオンズクラブ（針田一朗会長／40人）は10月23日、爽やかな秋晴れの下、NPO法人・きららの木（江川美奈子理事長）との交流会を開催した。きららの木からは11人の知的障害児と7人のご家族が参加した。

「家族とのコミュニケーションを大切にし、施設利用者に寄り添った支援をする」というきららの木の運営方針がライオンズの奉仕活動理念に合致すると考え、クラブ・メンバー総意の下、今回の企画実施となった。

午前9時30分、近鉄奈良駅前から大型バスで「なにわの海の時空館」へ向かった。同館では船と港に関するいろいろな展示物を、参加者それぞれのペースでゆっくりと見学した。

次は楽しい食事の時間だ。ご家族の話では、普段は食事をするのも大変だそうだが、ライオンズ・メンバーとの「すごいなぁー、何でも食べて！」といった会話がきっかけでお弁当を完食する子もいた。お腹いっぱいの子どもたちは「このこと学校の連絡帳に書いておいてね！」とお母さんにお願いするなど大変満足げで、お母さんもとても喜んでおられた。

午後は「海遊館」で魚とのお遊び。ある児童はフンボルトペンギンに会えたことが大層うれしかったようだ。

帰りの車中では、ビンゴ大会で大変盛り上がり、ほんとうに楽しい一日となった。

また10月26日の例会において、きららの木に助成金を贈呈した。

障害者と健常者の交流は大変有意義なことであり、各家族との交流を今後も継続して行っていきたい。

（幹事／上中智成）

大阪USライオンズクラブ

英語で国際交流餅つき大会

大阪USライオンズクラブ（48人）は12月11日、大阪国際交流センターで、海外からの留学生16人と地域小学生16人を招き、餅つき大会を開催した。小学生は英会話スクールに通う子どもたちで、日頃の成果として英語で自己紹介し、留学生から大きな拍手が上がった。

留学生たちは最初にもち米を試食して、餅になるまでの過程を不思議そうに眺めていた。

杵を持つサウジアラビアの学生は初体験の餅つきに、「こんな楽しいイベントは初めて」とカメラに収めた。

サウジアラビアの女子留学生は三角巾を付けるのを珍しがり、衛生のために髪を覆うのだと説明すると感心していた。お土産にと三角巾をプレゼントするととても喜んでくれた。

留学生の中にはぜんざいを苦手とする人もあり、砂糖醤油につけ海苔を巻いた餅が人気があった。

流暢な日本語を話す学生たちは日本の文化に触れ、和気あいあいとした交流があり、おいしそうに餅を食べる世界の青少年の笑顔があった。

サウジアラビア、バングラデシュ、イラン、フランス、中国、シンガポール、韓国、台湾と国際色豊かな餅つき大会は、彼らの将来の国際交流にも大きく貢献すると思う。

機械での餅つきだった昨年度は、日本はハイテクが進んでいるので餅まで機械でつくのかと留学生たちは不思議がっていた。今年は地域の青少年指導員の協力を得て開催出来た。今年の方針である「地域と共にWe Serve」を実践したアクティビティであった。

（会長／池内嘉正）

336-C地区第2リジョン第1ゾーン（広島県）

子どもたちと平和を考える

第2リジョン第1ゾーンの6クラブは福山市内78校の小学校に国際平和ポスター・コンテストへの参加を募り、315枚の応募を得た。絵画の先生と一緒に審査し、優秀作品6点を地区キャビネットへ提出した。どれも力作ぞろいで平和に対する思い、メッセージが伝わってきて、選考に苦労した。

子どもたちに平和について考える機会を提供するこのコンテスト。私たち336・C地区には平和都市・ヒロシマがあり、全国でもとりわけ平和に対する思いが深く、日頃から取り組みや教育が成されている。今回も多くの参加を頂き、改めて世界平和への関心の高さを感じた。

応募作品は10月14日から福山市役所ロビーに展示した。役所を訪れた多くの市民が足を止めて見入っていた。また、これに先がけて同ロビーで盛大に行われたオープニング・セレモニーには、羽田皓福山市長、寺越愼一地区ガバナー、参加校の校長ら来賓、また市民や市役所職員、ライオンズ・メンバーも多数参加した。

その後の地区審査で当クラブから提出した作品が代表となりガバナーズ賞を頂いたことは、作者本人はもとより我がクラブにおいても今後の大きな励みとなった。これからも引き続き子どもたちと一緒に平和を考え、「ヒロシマ」から発信し続けたい。

（福山菁陽ライオンズクラブ幹事／吾川茂喜）

岐阜県・池田神戸ライオンズクラブ

プロ野球選手による野球教室開催

池田神戸ライオンズクラブ（62人）は毎年7月、池田町・神戸町の少年野球チームを対象に、池田・神戸ライオンズ旗争奪野球大会を開催している。

第37回に当たる本年度は震災もあり開催を思案していたところ、地元の子どもたちが連日の震災関連のニュースに心を痛めているという話を聞いた。このような時こそ子どもに夢や希望を持ってもらうことが大切だという考えに至り、地元中日ドラゴンズの選手を招いて野球教室を開催することを決定した。

本年度はドラゴンズが日本シリーズに進出し、日程や選手の確保に苦労したが、関係各所の協力もあり12月4日、池田公園グラウンドにて盛大に開催することが出来た。

岩崎恭平選手、岡田俊哉選手、また同OBである三沢淳さん、山田喜久夫さんの4人をお迎えし、少年野球チーム8チームの小学5・6年児童130人が参加した。子どもたちは憧れのプロ野球選手から直接指導を受けられるということで最初は緊張しているようだったが、徐々に慣れてくると、プロ選手の細かい指導と動きにじっと見入っていた。

最後にプロ野球選手との1打席勝負ということで、選手の投げる球に挑戦したり、ピッチャーの子どもが選手に投げたりして、楽しい思い出を作ることが出来た。

教室終了後、選手たちに帽子やバットにサインをしてもらい、とてもうれしそうな子どもたちの笑顔を見て、開催までの準備は大変でも、今後もこうした支援を行いたいと思った。

（会長／児玉喜久夫）

山口県・宇部かたばみライオンズクラブ

ペットボトル・タワーでギネスに挑戦！

宇部かたばみライオンズクラブ（44人）は11月13日、ときわ公園遊園地を会場に、山口大学おもしろプロジェクト、長州科楽維新プロジェクトとの共催で「ペットボトル・タワーでギネスに挑戦！」を開催した。子どもたちに科学やものづくりの楽しさ、限りある資源の大切さ、安心安全に暮らせることの幸せを知ってもらおうと山口大学の学生が中心になって企画したものだ。毎年ギネスにチャレンジする地元学生の奮闘を見て、今年から当クラブも協力することにした。

約1万本のペットボトルを積み上げて、「ペットボトルでつくる世界一高い彫刻」でギネス世界記録更新に挑戦。デザインは、今年6月に宇宙飛行士の古川聡さんが搭乗したことで話題になったロシアのロケット「ソユーズ」をモチーフにした。ロケットの先端に使ったペットボトルは被災地・福島から届いたものである。

作業は高所作業車2台を稼動させ朝の10時頃から開始。昨年同プロジェクトが樹立したギネス世界記録を塗り替え、11・903メートルを達成！ 使用したペットボトルは1万829本になった。

なお記録達成後はイルミネーションで装飾し、ときわ公園で12月3日から開催される「TOKIWA ファンタジア 2011 イルミネーションコンテスト」のシンボルとなった。

（会長／山﨑勉）

京都橘ライオンズクラブ

新たな一歩、対外音楽活動!!

京都橘ライオンズクラブ（鳴海力之輔会長／50人）は今年度、結成50周年の節目を迎え、スローガン「One New Steps」の下、全会員が新たな一歩を踏み出した。

その一つが9月4日の橘音楽祭だ。当日は台風12号の影響で開催も危ぶまれたが、朝には大雨洪水警報も解除となり、午後1時30分に無事、演奏がスタートした。

当クラブの音楽同好会「ピラカンサス」の初めての対外事業である（ピラカンサスはタチバナモドキという花の学術名）。会場は、クラブ結成40周年にピアノを寄贈するなどの交流がある京都ライトハウス。音楽を通して視覚障がい者や市民と広く交流することを目的とした。京都府立洛北高校吹奏楽部、京都市立音楽高等学校の卒業生でつくるクラシック三重奏「トリオシャンテ」にもご協力頂いた。

雨の中、京都ライトハウスの利用者や市民ら約150人が駆け付けてくれ、クラシックやポップスの演奏を楽しんだ。皆で手拍子を取ったり歌詞を口ずさんだり、最後は出演者と一緒に「ドレミの歌」の大合唱で幕を閉じた。この橘音楽祭が2回、3回と続くよう、今後も障がい者への支援と市民との交流を続けていきたい。

今年5月のクラブ結成50周年記念例会では、盲目のピアニスト梯剛之氏をお招きし、氏のピアノを聞いて元気に活動をして頂こうと、京都府内の視覚障がい者100人を招待、400人規模での記念コンサートの開催を予定している。

最後に、京都ライトハウス初代館長である鳥居篤次郎氏の言葉を紹介する。

――盲目は不自由なれど　盲目は不幸にあらずと　しみじみおもう――

（幹事／森邦明）

茨城県・鹿島ライオンズクラブ

薬物乱用防止キャンペーン

鹿島ライオンズクラブ（高安五郎会長／75人）は、青少年の指導・健全育成を図るため、毎年市内6中学校において薬物乱用防止「ダメ。ゼッタイ。」教室を開催している。今期は既に全校で終了、853人の生徒が参加した。

潮来保健所、鹿嶋警察署等の協力を得て、薬物が人体に与える影響や薬物事犯についての説明、「ダメ。ゼッタイ。」ビデオの上映、薬物の現物見本の表示等を行う。今期から取り入れたロールプレーイングでは全校生徒が数グループに分かれ、先生とライオンズ・メンバーが先輩や友人役となり薬物使用を勧め、生徒がこれをどのように断るかを評価し合う。顔見知りから勧誘される場合が多いことなどを学び、薬物乱用防止の意識を高めることを期待している。最後の質疑応答では「薬物中毒になると絶対治らないのですか」「薬物と薬局で買える薬の違いは」など活発な質問が出た。アンケート結果からは薬物が自分たちの身近に迫っていることを感じ取っている様子がうかがわれた。

父兄参加の学校もあるが、当クラブは父兄への啓発推進を図り、保健所等と協力し、祭りやショッピング・センターなどで薬物乱用防止キャンペーンを行っている。

教室の開催方法等については、おおむね1時間半程度の学習体系が出来上がり、年間行事に組み入れてもらうなど学校との連携も出来ている。当クラブには認定講師が17人おり、教室やキャンペーンの他、「ダメ。ゼッタイ。」運動のビデオ制作等へ活動の場を広げている。

これからも青少年健全育成と同時に、一般市民に向けても薬物乱用防止を推し進めていきたい。

（青少年指導委員長／小副川千尋）

京都桃山ライオンズクラブ

50周年記念のブロンズ像建立とチャリティー・コンサート

10年前、京都桃山ライオンズクラブ（梶原正暁会長／62人）の結成40周年記念事業として宇治川派流、伏見港公園一帯に桜やユキヤナギなどを植樹。毎年春には桜まつりの開催など、新たな桜の名所として市民や観光客の憩いの場となった。

50周年の今年度は、昨年9月6日、宇治川派流の寺田屋浜に「龍馬とお龍愛の旅路」ブロンズ像を建立した。ここは伏見と大坂（天満橋の八軒家）を結ぶ三十石船の船着き場で、坂本龍馬とその妻お龍が、日本で最初と言われる新婚旅行、九州・霧島へと旅立った歴史的な場所である。この像が地域や観光客の方々に愛され、長く後世の人々に語り伝えられることを願ってやまない。

なおこの像は、青少年育成事業の一環として京都教育大学の美術工芸科の学生や院生に制作・協力頂いたものである。

また10月16日には京都会館第一ホールにて、渡辺貞夫さん、市原悦子さん、新垣勉さん、他出演によるチャリティー・コンサート「風の巡礼」を開催した。開演30分程前から観客が長蛇の列を成し、中庭のピロティーには並びきれずに二条通まではみ出した。集客数2千人強のホールがほぼ満席という盛況に、実行委員会の面々も大喜びだった。

視覚障碍者とその関係者500人余りを無料招待し、非常に意義あるものとなった。閉演後に出口でお見送りしていると、「良かった、良かった」「泣けたわ」などのお言葉をたくさん頂き、我々も疲れが吹き飛び、爽やかな気持ちになった。

この収益金は東日本大震災への支援、京都アイバンク愛の光基金に寄贈した。

（第3副会長／瀧井義郎）

鹿児島県・久木田学園レオクラブ

我が誇りのレオクラブ

久木田学園レオクラブ（上村彰華会長）は1999年に鹿児島さつまライオンズクラブ（五十嵐文子会長／59人）のスポンサーで結成された。

当学園は鍼灸あん摩マッサージ指圧師と、看護師を養成する二つの専門学校から成り、両校からライオンズの趣旨に賛同する学生たち139人が参加してレオクラブを構成し、奉仕活動に励んでいる。特にマッサージや介護、看護などの専門的技術を生かした医療奉仕を中心に、地域社会で幅広く活躍している。

例えば、今年度は県内5カ所の高齢者施設で医療奉仕を行った他、市内河川の清掃活動、県の障害者スポーツ大会に運営補助員として参加したり、鹿児島ライオンズクラブと合同で街頭で献血推進の呼び掛けなどを実施した。

ところで、当レオクラブ・メンバーで久木田学園看護バレーボール・チームを構成しているのだが、昨年7月31日～8月4日に東京で開催された、第20回全国専門学校バレーボール選手権大会において、見事全国優勝（文部科学大臣杯）を成し遂げることが出来た。医療技術習得と奉仕活動の更にその合間に重ねた努力が実り、競合ひしめく激戦を撃破した快挙をここにご紹介したい。決勝戦の対スポーツ専門学校を含め、全戦ストレート勝ちという圧巻の勝利であった。

看護学校は学業が非常に忙しいため、休日返上で練習に充ててきたという。竹原里紗キャプテンは「勉強とバレーの両立は大変でしたが、皆が同じ目標を持って支え合い、充実した1年間でした」と語った。これを励みに、更に今後の勉学、奉仕にも更に積極的に取り組んでもらいたいと思っている。

（鹿児島さつまライオンズクラブレオ顧問／久木田寿二六）

兵庫県・西はりまライオンズクラブ

例会出席率120％を目指して！

西はりまライオンズクラブ（辻明典会長／22人）は結成2年目の新しいクラブだ。フレッシュパワーで新しい形の地域貢献を目指しているが、メンバーが若いため例会出席率の向上が課題となっていた。

　そこで新規の取り組みとして、通常例会を補完するWeb例会を開設することにした。9月にWeb委員会を立ち上げ、どのような例会形式が実施可能か検討を進めてきた。試行錯誤の中で必要だと感じたのは、①ライオンズ規則を順守しつつ時代のニーズに合わせること②Web社会の中での礼儀作法を学ぶこと③Web例会では文章をネットにアップすることが参加要件となるので、必要な文章力・表現力を身に付けること④忙しい中でいかにライオンズ活動のための時間を自ら作るか、ということであった。

　Web委員による模擬例会を重ねた結果、決められた課題（ネット上に提示）に対して、期間を設けてレポートを作成・送信し、Web委員によるネット承認を受ける手法を採用することにした。課題は、ライオニズムに即した内容から当クラブ主催の人間学セミナー（毎月1回開催）まで多岐にわたるものとした。Web例会が実施出来れば、どうしても通常例会に出席出来ないメンバーでも活動に参加する機会を得られるし、更には、通常例会参加メンバーもWeb例会に参加すれば、例会出席率120％も不可能ではない。

　2012年1月の本格運用に向けて、現在はメンバーのWeb例会参加練習を重ねており、並行してWeb委員によるシステムの検証と規約の作成に取り掛かっている。どのような状況下でも例会出席率向上と、奉仕の精神を忘れず進歩していくクラブを目指していきたい。

（Web委員会／堂野資朗）

長崎県・諫早センチュリアン ライオンズクラブ

108歳の新会員

12月25日に108歳の誕生日を迎える高野ワサさんが諫早センチュリアンライオンズクラブ（諸岡啓子会長／202人）に入会し、12月6日、歓迎式を開催した。おそらく世界のライオンズの中でも最高齢ではないだろうか。

高野は1903（明治36）年、漁師の家に生まれ、18歳ごろからイワシなどを行商、20歳で醤油製造業を営む男性と結婚した。2年前に介護老人保健施設に入所。毎日3食きちんと食べ、牛乳200ccを飲む。ここ数年風邪もひいていない。長生きの秘訣は「大食いしないこと」だそうだ。

　歓迎式では会員の手拍子を受けて「芸者ワルツ」を熱唱。私からは一足早い誕生日プレゼントと、入会祝いを兼ねた「茶寿」と書かれた書を贈呈した。

　高野は、「長生きした感謝の気持ちを表したい」と入会してくれた。同クラブは2010年に112歳で亡くなられた嶋田シカも所属しておられた、極めて長寿の会員を有するシニア・ライオンズクラブである。80代もまだ息子世代。会員一同高野と共に、心を若く、感謝の気持ちを持って奉仕に精進していきたい。

（元地区ガバナー／出口喜男）

㈱ 髙木造園

代表取締役：髙木 健治（西宮甲山ライオンズクラブ所属）
〒663-8006 兵庫県西宮市段上町一丁目7-9
TEL.0798-52-0085　FAX.0798-54-3220

㈱ 森岡造園

代表取締役：森岡 和之（明石北ライオンズクラブ所属）
〒651-2204 兵庫県神戸市西区押部谷町高和536-2
TEL.078-994-0891　FAX.078-994-0867

㈲ グリーンガーデン

代表取締役：芝 吉信（和歌山中央ライオンズクラブ所属）
〒640-8390 和歌山市有本204番地の7
TEL.073-433-4757

㈱ 岡本ガーデン

代表取締役：岡本 光生（柏原ライオンズクラブ所属）
〒582-0012 大阪府柏原市雁多尾畑3820
TEL.072-979-0906　FAX.072-979-0907

髙橋園芸 ㈱

代表取締役：髙橋 正（松原ライオンズクラブ所属）
本社：〒547-0023 大阪市平野区瓜破南1-714-4
TEL.06-6708-1128　FAX.06-6708-1191
松原支店：〒580-0046 大阪府松原市三宅中1-15-10
TEL.072-333-1128　FAX.072-333-5931
e-mail:office@takahashi-engei.co.jp（松原支店）

庭　各種造園・設計・施工・植木管理一式

㈲ 参季園

代表取締役：本村 秀昭（松原ライオンズクラブ所属）
〒580-0005 大阪府松原市別所2-3-12
TEL.072-336-0791　0120 - 704128
FAX.072-336-3370　e-mail:see.4128@proof.ocn.ne.jp

阪上造園

代表取締役：阪上 明（河内長野ライオンズクラブ所属）
〒586-0021 大阪府河内長野市原町6-1-7
TEL.0721-54-5762　FAX.0721-52-2389

川村造園（営業年間38年間）

代表者：川村 昭三（京都やわたライオンズクラブ所属）
〒614-8072 京都府八幡市八幡長田68番地
TEL.075-981-0784　FAX.075-981-0784

緑とのふれあい……

野田造園

代表取締役：野田 清久（八日市ライオンズクラブ所属）
〒527-0224 滋賀県東近江市市原野町2071-1
TEL.0748-27-0177　FAX.0748-27-0938

㈲ 吉川翠松園

代表取締役：吉川 景三（生駒ライオンズクラブ所属）
〒630-0226 奈良県生駒市小平尾町176番地
TEL.0743-77-6344　FAX.0743-77-8896

㈱ 大北美松園

代表取締役：大北 望（姫路グリーン ライオンズクラブ所属）
〒672-8014 兵庫県姫路市東山84-8
TEL.079-245-2148　FAX.079-245-2080

㈱ 志染造園土木

代表取締役：橘田 文雄（三木東ライオンズクラブ所属）
〒673-0501 兵庫県三木市志染町吉田1145-1
TEL.0794-83-3517　FAX.0794-83-3518

●獅子吼（ししく）
①仏が説法するのを、獅子が吼えて百獣を恐れさせる威力に例えていう語。
②大いに熱弁をふるうこと。（広辞苑）
●投稿要領→54ページ

被災地から被災地へ
友愛に基づくライオンズの支援に感謝

ソムサクディ・ロヴィス（タイ・バンコク・コスモポリタン）

昨年は世界のあちこちで、さまざまな天災が発生しました。特に日本においては、3月11日に、世界中を震撼させた未曽有の大災害、東日本大震災が起こりました。東北地方沿岸部を襲った津波は、多くの尊い命を奪い、世界中の人々が悲しみに暮れました。更に、その半年後の9月初旬には近畿地方を台風12号が襲い、各地で土砂災害、浸水などが発生しました。

これらの災害により被災された皆様には、改めて心からのお見舞いを申し上げます。

我が国タイでも、9月から11月下旬まで、今まで経験したことのない大洪水が起こりました。これは半世紀ぶりと言われる規模で、2011年は誠に大変な1年でした。

タイの洪水は、かなり深刻なもので、多くの日系企業も長期間にわたり操業出来ず、影響を受けられたことと思います。それでも、東日本大震災に比べれば、タイの洪水被害はまだ軽微に思えます。しかしながら日本の方々は、続けざまに大きな天災に見舞われたにもかかわらず、タイの大洪水被災者に対し、多くの義援金を送ってくださいました。

昨年、洪水が発生した当初、洪水被災者の救援のため、日本を始め、台湾や韓国など、これまで親しく交流をさせて頂いていたライオンズの友人たちに、支援をお願いしました。当時、緊急支援物資を調達するために必要な金額を算定し、出来れば1万～2万ドル程度の支援を頂けたらと考えていました。しかし、皆さんの助け合いのお気持ちで輪が広がり、最終的には日本円で631万6千円と2万1千ドル（タイ・バーツ300万バーツ）を、日本のライオンズの皆さんから送って頂きました。

イラスト／小川和政

今回の洪水被害の範囲は、首都バンコクの一部とその他の7県、浸水の期間も数週間から数カ月までと、それぞれ地域によって異なります。支援物資も、最初はお米や飲み水、あるいは医薬品を始めとする日常的な生活必需品でしたが、昨年の12月に入ってからは、多少なりとも落ち着きを取り戻し、緊急支援から復興へとニーズが変化してきました。

今までのところ、合計6千世帯に緊急支援物資を配りましたが これからは家屋や学校の校舎などの修理、医療機関における医療機器の購入など、復興活動の方に転換していきます。現在、既に一つの学校と、家屋10軒の修理に対し援助を行いました。

被災地域が広いため、これから長い道のりになりますが、とりあえず、今までの状況を報告致し、皆さんからの大切な義援金を一銭たりとも無駄なく、今回の洪水被災者たちのために大事に使うように保証致しますと同時に、タイの被災者たちを代表し、日本の皆さんに、厚くお礼を申し上げます。

皆さん、本当にありがとうございました。これからも一緒にがんばりましょう！

（元国際理事）

未来への夢
日本列島を世界自然遺産にしよう

藤沢　誠（岩手県・藤沢岩手）

２０１１年３月11日の激甚災害は、とんでもない出来事であった。

東北地方の太平洋沿岸の津波の来襲は、自然の猛威をしっかり見せつけた。人間はみな度肝を抜かれた。

それにしても今回の津波は港町を洗い流してしまった。入江の奥まで浸入し、漁港を破壊しつくした。我々はテレビの映像などでものすごい光景を見せつけられた。私の友人、知人には岩手の三陸海岸沿いに居住している者も多い。何人もの死亡者や行方不明者がいて心が痛む。むごいと思う。

宮古地区、釜石地区、大船渡地区、陸前高田地区の岩手県内の海辺は大損害を被った。隣接する宮城県の気仙沼地区、南三陸地区も想像を絶する津波の巨大さに圧倒された。

３月以来、各被災地の復旧はままならない。津波がもたらした残骸がものすごいのである。海岸一帯ががれきの山。平和だった土地が、広範囲にわたって見る影もない無惨な姿をさらけ出している。総合的に資金と人員を確保し、集中的に施策を強行しなければならない。モタモタしてはいられないのだ。

しかし、被害に対する我が国の復旧行動は速攻に欠けている。だから速効の成果が出ない。

日本列島は今、大きな危機に直面している。日本の結束力が試される。「大地震と津波から復興した日本列島」ということを世界中へアピールすべきと私は考えている。

太平洋にまともに面している日本列島は地球規模で眺めても特異な存在なのだ。

国土全体がぐるりと海の波が寄せてては返している。そして、何度も繰り返してきた天変地異を乗り越えて、たぐいない幽玄かつ微妙な自然の地形を造った。

日本の国土は海だけがすばらしいのではない。山岳、丘陵、森林、原野、農作地、牧畜草原、渓谷や数々の滝や湧水、変化に富んだ湖沼などなど。火山も地震の多発と共に世界中から注目されている自然の驚異の一つである。

日本のライオンズの組織は今から千年後の復興を目安として「世界自然遺産」への取り組みをスタートさせるべきだ。「官主導より民主体」の設計図と進行工程表と才能を結集させ、組織系統を厳密にし、その業務を実行すべきである。

必ず日本列島に大きな地震と共に千年以内には何度も津波は来る。その度に津波による爪痕に立ち向かい、「津波を乗り越えている日本列島」を世界へアピールしていくのである。

日本人の根性と根気強さと団結力を示し、知恵と技術の優秀さを国土づくりに役立てるのだ。この間に、いくらなんでも日本の政治は世界から認められる土台のしっかりした運営が出来ていよう。日本国民は、先見性があり見識に満ちた実行力のある政府を大望しているのであるから。

日本のライオンズは実働部隊として若手会員が中心となって、他国のライオンズの人々を驚愕させるような実績を作っていることであろう。

２０１１年の「３・11」の大災害は日本の国づくりの上で大きな節目になったのである。

日本政府がモタモタし、政権がグラグラしているのは国民として恥じる。我々一般人が率先して復興のプログラムを示す働き掛けをすべきなのだ。

日本ライオンズ全体として、「提言」を

し、いくばくかの「浄財」を提供し、優秀な頭脳を集める足しにしてもらうことだって出来るのだ。

　さて、現在の世界の政治、経済、外交はアメリカの国力低下によって、てんやわんやである。いつまでも世界の先進グループから「日本はアメリカのお追従」などと言われてはたまらない。

　やはり日本のライオンズが、組織的に世界のライオンズへ毅然たる態度で存在を誇示し、重要項目を主張したい。その一つが「日本列島の世界自然遺産」への取り組みである。

　目の先に、目指すべき誰もが「やってみよう」という目標がなければ人々は燃えない。

　心を合わせて楽しくてやりがいのある取り組みこそが、組織全体への活性化となり一人ひとりの活力になる。未曽有の今の国難に、夢と希望をたぎらせ立ち向かおうではありませんか。

みんなできずこう和の社会

中村　房雄（大阪府・泉大津）

　今から32年前の1981年、335・C地区のライオン村上薫が、第65代国際会長に就任されました。日本はもとよりアジアでも初の国際会長です。

「People at Peace」（みんなできずこう和の社会）のテーマの下、すばらしい業績を遺されました。

　村上会長は短い任期の中、150余の国と地域に及ぶライオンズ国を公式訪問されました。同時に、当時八複合地区で約14万人となっていた日本ライオンズを代表し、ひいては日本を代表する形で各国政財界のリーダーにも接見。

「平和は神から与えられるものではなく、

獅子吼

人間が作り出すもの。なのに、その人間が命を奪い合っている。私は憤りを持って現代に抗議する」

と訴えられました。

その平和運動の功績を認められ、翌年には国連平和賞をも受賞されております。しかし、多忙を極めた1年を終えて100余日、過労のために急死されました。享年64。まさに命と引き換えに世界人類に尽くされたのです。

日本の歴史において、どの分野であれ、世界の長となった人物はあまりおりません。無私の心でライオンズに情熱を捧げ、平和の心を世界に広げた方でした。

この「和」という言葉の起源を歴史に求めてみますと、飛鳥時代までさかのぼります。聖徳太子が日本国という名称を初めて掲げ、独立した国として十七条憲法を制定したのが604年。その憲法第一条の冒頭に「和を以って貴しと為し、忤ふること無き宗とせよ(和を尊び、人と争うことがないように心掛けよ)」と書かれております。これにより「和の精神」が日本古来の人道精神の基礎であることが分かります。そして、この「和」こそが、今のライオンズを支える友愛、相互理解、寛容の精神につながっているのです。

村上会長は、日本の文化に脈々と受け継がれてきたこの「和の精神」をもって現代の平和を論じ、これを世界に広められました。日本ライオンズならではの願いとして伝えられた和の心は、今も世界中の会員の魂に宿っているのです。この和の精神が原動力となって会員一人ひとりが活動の目的と意義を考えること、そして和の精神が各クラブの基軸となって発展の推進力となることを、我々は信じております。

今、334-B地区のライオン山田實紘が、国際第2副会長としての立候補を表明されています。日本ライオンズの一人として村上会長の跡を継ぐべく立ち上がられたのです。日本ライオンズがまさに「和の精神」をもって一丸となり、新しい代表を世界に送り出す時が来たと思っております。

また、2011年3月には未曽有の大震災が東日本を襲いました。すぐさま日本中の、そして世界中のライオンズの仲間たちから援助の手が差し伸べられたのは、心強いばかりです。大きな悲劇ではありましたが、ライオンズの絆の強さに喜びと誇りを感じる機会ともなりました。

「和の精神」とは、怒りを抑えて争いを避けるというだけの意味ではありません。村上会長が「憤りを持って抗議」されたように、強い意志で困難を克服し、社会の安寧を得るべしという信念なのです。

誰かが倒れれば誰かが助け起こし、皆で歩んでゆく。そういう共助の精神がライオンズの基本であることを改めて確認出来ました。

これからも和の世界の実現を目指し、手を携えて、長い年月が掛かる東日本の復興への道のりを共に進んでいきたいと願っております。

迷テール・ツイスター参上

皆川　春安（千葉県・流山）

「笑う門には福来る」とは、昔から言われてきたことです。

神話に、天照大神が弟にいじめられて岩戸の中に隠れてしまい、世の中が真っ暗になった時、外のみんなが笑ったので、何だろうと思って少し岩戸を開けたら、待ってましたとばかり外の者が岩戸を全部開けたので、再び世の中が明るくなった、という

話がありました。笑うことがどんなに大事かということを教えていると思いますが、体のためにも腹の底から大いに笑うことが健康の秘訣ではなかろうかと思っております。

ところで、今年何と81歳の私にテール・ツイスターの話が出て参りました。普段の例会では観客席でただ見ているだけのもの、歴代のテール・ツイスターが披露してくれたいろいろな趣向も、過ぎてしまえば花火と同じで記憶には残っておりません。

そんなことを思い巡らせながら、さて、役を受けるかどうしたものかと思案を致しました。が、何事も相手から頼まれるうちが花、「当たって砕けろ」とばかり引き受けることにしました。立場が変われば大変なことになってしまったと思いましたが、それは後の祭り。何年か前に地区ガバナーをお引き受けした時より緊張しました。よし、こうなったら何事も原点に戻って考えようと素直に決意致しました。

いよいよ夕食後のひと時、赤いたすきを肩から下げ、寄席の舞台にでも上がったような気持ちになって笑顔を振りまいておりますが、その顔の裏側ではなぜか緊張しておりました。それでもまず、笑いを誘いました。

「今の総理は野田さんと呼ぶ、○か×か」の問いには全員正解でした。早速、おしるしに手拭いをプレゼント致しました。続いて「野田総理とかけて我が女房と解く、その心は」。答えは、総理のどじょうも、うちの女房も「ひげ」があるというもの。昔、『うちの女房にゃ髭がある』という流行歌がはやったことがあるのを思い出しました。

その後、お米屋さんでもある会長から精米の差し入れがありましたので、お米に関する即席の川柳を作ってもらいましたが、とても好評でした。時には簡単な手品もご披露致しました。クイズもやってみました。最近は、自己紹介をやってもらうことにしています。

といっても、堅苦しい紋切り型のあいさつではなく、名前の由来とか出身地の紹介、奥様との出会いのドラマなど、尽きることはありません。長い付き合いのある人でさえ、そのエピソードに関心しながら盛んに首を縦に振っておりました。また、昔の地域の歴史が解説されるようでいろいろ勉強になります。

考えてみますと、例会と言っても儀礼的な運営と食事だけでは楽しいはずがありません。これではせっかくの和が半減してしまいます。

特に若い層の方や女性が何を考え、何に関心を持っているかを手探りしないと気持ちが離れていってしまいそうです。いつも、例会が神話に出てくるような明るく楽しい雰囲気であってほしいと思う一人です。

『ライオンズクラブの歌』の最後に「おおしく」という歌詞があります。本来は、「雄々しく」と書くところですが、特に女性の進出の目覚しいこの時代では「凛々しく」と言った方が、女性には理解してもらえるのではないでしょうか、と考える時もございます。

さて、迷テール・ツイスターは毎回、今度は何の出し物で笑ってもらえるかと真剣に考えております。「お代は見てのお帰り」お帰りのドネーションの方も何とぞよろしく願い致します。

ライオン誌日本語版出版物

ライオンズスクール・シリーズ

初級編・ライオンズクラブ入門
第3版第2刷

A4判
64ページ
1部400円・送料実費

入会したての新会員を対象に、これだけは知っておきたいライオンズクラブの基礎知識をまとめた。併せて「ライオンズ用語集」も収録。

中級編・クラブ運営の基礎知識
第3版第2刷

A4判
64ページ
1部400円・送料実費

クラブ運営の基本を分かりやすく解説。知識を確認したり、セミナーや研修会などでグループ・ディスカッションに利用出来るワークシート付。

上級編・リーダーシップを養う
第1版第4刷

A4判
64ページ
1部400円・送料実費

国際協会の総合的リーダシップ育成プログラムを基に編集。地区役員研修会などの副読本に、またクラブ会長や地区役員の指導力育成に最適。

※ライオンズスクール・シリーズはいずれも50部以上ご注文の場合、送料無料（ただし、急ぎの場合は実費請求）。
●大口注文割引＝100〜499部350円／500部以上300円

ウィ・サーブ

1952年に初めてのライオンズクラブが誕生してから50年。世界有数のライオンズ国となった日本ライオンズ半世紀の軌跡。
B6判 332ページ
1部800円・送料実費

ライオニズムよ永遠に

ライオンズクラブの創設者メルビン・ジョーンズの生涯を時代と共に活写した労作。ジョーンズの書簡集と寸言録も収録。
B6判 224ページ
1部800円・送料実費

『ライオン』誌創刊号復刻版

1958年、『ライオン』誌日本語版創刊。発行部数はわずか4,500部だったが、誌面からは草創期の活気がひしひしと伝わってくる。
B5判 68ページ
1部300円・送料実費

※お申し込みは下記注文書をお使いの上、郵送またはファクスでお願いします。
※電子メールの場合は、地区名・クラブ名・お名前・ご住所・お電話番号を明記し、office@thelion.jpあてにご注文ください。
※ライオン誌ウェブマガジンからオンラインでのご注文も承っています。下記のライオンズ文庫注文フォームからどうぞ。
https://www.thelion-mag.jp/modules/inquirysp/index.php?op=2
※請求書・振込用紙は、品物に同封します。（大口注文の場合は別便で送付）

〒104-0045　東京都中央区築地2-2-1　築地細田ビル7階　ライオン誌日本語版事務所（FAX：03-3546-2630）

キリトリ線

ライオン誌日本語版出版物　注文書

●ライオンズクラブ入門 …………	部	●ウィ・サーブ …………………………	部
●クラブ運営の基礎知識 …………	部	●ライオニズムよ永遠に …………………	部
●リーダーシップを養う …………	部	●『ライオン』誌創刊号復刻版 …………	部

地区名 33 -	クラブ名	お名前（クラブで注文の場合は不要）
ご住所 〒 -		お電話番号

宮崎県日向市

本物の中の本物を輩する はまぐり碁石と、かや碁盤の里

文／砂山幹博　写真／田中勝明

原料は1枚の貝殻から一つしか取れない

現在、原料の主力はぽってりと厚いメキシコ産

日向はまぐり碁石の誕生

囲碁の世界にかつてない異変が起きている。碁会所に集った年配の男性たちが、日がな一日碁盤を挟んでじっくりと対局……そんなイメージを覆す光景が最近見られるようになった。囲碁普及団体が開催する最近のワークショップでは、参加者の7割、入門者のほぼ9割を20～30代の女性が占めるという。童話の森にいそうな「森ガール」や、アウトドア・ファッションに身を包んだ「山ガール」といった女性たちが一世を風靡（ふうび）しているが、最近は新たな趣味として囲碁をたしなむ「囲碁ガール」なる若い女性たちが急増中なのだ。なんでも「集中力が養われ」たり「幅広い年代と対局を楽しめる」のがだいご味だと話す。ともあれ年配者の娯楽と思われていた囲碁は、確実に新しいファンを獲得している。

さて今回は、その囲碁にまつわる話。名が示す通り19×19の格子が描かれた碁盤の上に白と黒の石を交互に置いていき、自分の石で囲んだ領域の広さを争うゲームである。発祥は中国と言われ、日本には平安時代に入ってきた。源氏物語など古典作品にも数多く登場し、後に庶民にも広く普及した。地域でルールの違いがあったり、ルールそのものに矛盾も存在したが、徳川家康の時代に家元制が設けられ、これを機に囲碁のルールは統一された。

黒石に今も熊野（三重県）で産出される那智黒石を使うように、もともと碁石の原料は石（または木）であった。白石に美しい透明感を持ったはまぐりの貝殻が用いられるようになるのは明治初期。桑名（三重県）で貝殻が厚いはまぐりがよく取れたため、大阪に運ばれて碁石に加工された。その後、桑名のはまぐりの産出量が減少、碁石の原料が枯渇しかけていた頃、大阪で碁

日向はまぐり碁石発祥の地であるお倉ケ浜。ウミガメの産卵地で、サーフィンのメッカとしても知られる

石屋を営んでいた石橋小七郎は、富山の薬屋から興味深い話を耳にする。「日向のお倉ケ浜という場所に変わった貝殻がたくさん打ち上げられていた」というのだ。早速、番頭を調査に向かわせたところ、これまで見たこともないような分厚いはまぐりの貝殻が、足の踏み場もないほど散らばっていた。それからというもの、番頭は毎日貝殻を拾っては、船で大阪へ送り続けた。原料不足が解消された小七郎はたちまちにして大阪一の碁石屋になった。

この時、お倉ケ浜で貝殻拾いの日雇として働いていた者の中に原田清吉という人物がいた。小七郎の成功を目の当たりにした清吉は「これだけの利が得られるのであれば、自分が郷里日向で碁石屋を始めよう」と決意。すぐに上阪し、碁石屋で職人として腕を磨き、一流の碁石工となって帰郷。自宅で碁石屋を開業した。清吉がこの地で作ったはまぐり碁石は、後に日向の特産品として知られるようになった。

貝殻に込められた美を引き出す

お倉ケ浜で取れるはまぐりは、正式にはスワブテ蛤（はまぐり）という。「スワ」は「ツバ」がなまったもので唇のこと。「ブテ」は「太い」なので、唇が太いはまぐりということになる。確かによく見かけるものとは比べものにならな

下書きに沿って日本刀の刃に付けた黒漆を盤面に盛りつけていく太刀盛りの工程

いほど貝殻が厚い。碁石の原料が取れる厚さになるまでに40年は掛かるというが、生きた貝から作る碁石は目が荒く割れやすい。そのため、碁石の原料は主に砂中深くにうずもれて化石化しているものが使われる。スワブテ蛤の化石はどういうわけかお倉ケ浜とその隣のお金ケ浜でしか見つからず、その理由は今もって謎である。

　が、かつては海岸の至る所にあった貝殻も昭和43年頃から枯渇し始め、今はほぼ掘り尽くされてしまった。現在、原料の主力はメキシコ産のはまぐりである。日向産スワブテ蛤の場合、1枚の貝殻から1個の原料しか取れないが、巨大なメキシコ産からは1枚で6個も7個も取ることが出来る。

碁盤となる日を待つ乾燥中のかや材

　昔はすべて手づくりだったが、現在はほとんどの工程が機械化されている。

　最初の工程はくりぬき作業。機械を使うとはいえ碁石に最も適した部分をくり抜くには熟練の技がいる。ここでくり抜く場所を誤ると、碁石としての価値が格段に下がってしまうのだ。貝殻をドリルに通すと、直径約22ミリにくり抜かれた碁石の元が現れた。昔なつかしい錠剤タイプのラムネ菓子を思わせる形状である。黒石となる那智黒石もこの状態で日向にやって来て、白石と共に一つひとつ丁寧に研磨機にかけられ、碁石の形に整えられていく。研磨の工程は、粗ずり、中ずり、仕上げの3段階に分けられ、日向産スワブテ蛤に限り最後の仕上げは伝統工芸士の「手ずり」に委ねられる。十分な厚さを持つメキシコ産とは違い、日向産は余計な部分を削らないよう、どうしても職人の手作業が必要となる。

　この後、過酸化水素水に2昼夜浸し、天日を浴びると白さがグッと増す。最後に、研磨剤や水と共に5千〜6千個の碁石を木樽に入れて6時間ほど回し続けると、碁石と碁石が摩擦しあい、美しい光沢を持ったはまぐり碁石が完成する。

ファン垂涎の碁石と碁盤

研磨された乳白色の碁石は、光沢が

色彩や形、光沢、縞目模様、傷などを慎重に点検し、雪・月・花などランク別に分類される

美しい乳白色に輝く雪印の碁石。きめ細やかな縞目模様が浮かび上がっていた

なめらかで手触りが優しく、縞目模様が美しい。日向産もメキシコ産もほとんど同じ工程を経て碁石となるため、素人目に両者を区別することは難しい。強いて言えば日向産はメキシコ産に比べると縞目模様が細かい。碁石の質の善しあしは日向産の場合、純白さの程度で上から雪・花・月の3段階に分かれ、メキシコ産は縞目模様の細かさの度合いで雪・花・実用の3段階に分かれている。

そしてそれぞれ厚みのあるものほど価値が高い。32号（8・8ミリ）から36号（10・1ミリ）がほど良い厚さとされ、名人戦には36号前後が使われる。日向産で最も厚いのが40号（11・3ミリ）。碁石のサイズがなかなかそろわないため、これまでにたったの5～6組しか作られていない。メキシコ産を使った45号（12・8ミリ）といったほぼ球体に近いものがあるが、実戦には向かない。こうした厚ものは、中国のお客さんが贈答用に購入していくことが多い。程良い厚みのある碁石を碁盤に打ち込んだ時、石がぷるぷると震えるのが、分かる人にはたまらないという。

また、石を打った音の響きが良く、弾力性があるため長時間打っても疲れにくいのが「日向かや碁盤」。碁盤材として最高の素材とされる日向かやで作った逸品だ。5年以上の歳月を掛けて自然乾燥させたかや材を使い、盤材の加工から手彫りの脚まで100％職人が手作りで仕上げる。

「日向はまぐり碁石」と「かや碁盤」。囲碁ファン垂涎の的であるこれら本物に触れることが出来る催しが毎年一度日向市内で開かれる。日向はまぐり碁石まつりは、日本全国の棋士が集まる囲碁の祭典。はまぐり碁石とかや碁盤の確かな感触を楽しみながら、対局で腕を競い合うという産地ならではの催しだ。今回で第23回目を数えるが、いまだ囲碁ガールの参戦はない模様。次回以降の動向が楽しみである。

郷土自慢・クラブ自慢

国の伝統的建造物群保存地区に選定されている「美々津町並み」や、当地出身の歌人「若山牧水」など郷土自慢に事欠かないが、日向ライオンズクラブのイチオシは2006年12月に完成した「日向市駅の新駅舎」。高架ホーム全体をすっぽりと大屋根で覆った駅舎には、地元耳川流域で産出された杉材をふんだんに使用。柔らかな温もりあふれる空間が演出されている。2008年にはそのデザイン性の高さから、鉄道に関する国際的なデザインコンペティションであるブルネル賞で最優秀賞を受賞。駅舎としての最優秀賞受賞は日本初の快挙である。コンコースや高架橋の天井を見上げてみると、部材として使われている杉材には大勢の市民のメッセージが書き込まれていた。木の温かみだけではなく、人の温もりも感じる駅舎である。

▼日向ライオンズクラブ（西村光平会長／33人）＝1961年2月3日結成／スポンサー：宮崎ライオンズクラブ

12月の中頃、知的障害者施設にスポンジケーキを持ち込み、メンバーと障害を持つ子どもたちが一緒になってクリスマスケーキを作るアクティビティを30年続けている。

読者から――1月号

■国際協会の一員として

「THEME I：マニラ・フォーラム」は参加出来なかったメンバーには興味深く、日本ライオンズのルーツであるフィリピン・マニラでのOSEALフォーラムとしてフォーカスされた部分だけでも意義深い。我が国のライオンズが今日あることへの感謝を、改めて感じられた記事であると思う。また、往々にして単一クラブがライオンズクラブであると錯覚してしまいがちなところが少なくないが、「THEME II：世界のアクティビティ」で世界各地の多彩なアクティビティが紹介されたことによって、私たちが国際協会の一員であることの再認識が促されると感じた。

愛知県・名古屋中ライオンズクラブ●竹川享志

■国際本部への関心

私は1980年にライオンズクラブに入会して以来、これまで国際協会や国際本部については全く関心が無かったのですが、秦従道国際理事の「国際理事だより」を読ませて頂き、改めて疑問が湧いてきました。まず、国際本部等にはどのくらいの職員がいて、人件費を含め年間どのくらいの経費で運営されているのか。それらについても「国際理事だより」の中でご報告頂ければ、より理解が深まるのではないかと思います。

埼玉県・浦和ライオンズクラブ●吉田博晃

■林住期を迎えて

「編集室」で話題に取り上げられた古代インド人の生き方について、20年以上前に感動して聞いたことがある。クラブに入会して間もない頃、ゲストで招いたお医者さんのスピーチだった。私自身「林住期」の年齢になり、「学生期」「家住期」を真剣に生きてきたかは疑問の残るところだが、これからの「林住期」はライオンズクラブが標榜する「We Serve」の時期だと考える。日本が、世界がグローバル化されている余裕なき今こそ、古代インドの哲学を実践すべきだと思う。経済優先・科学優先・猛スピードで進む現代の私たちの生活を振り返り、人に対する優しさ優先・奉仕優先の一つの生き方を、この記事は示唆したものだろう。

富山県・高岡志貴野ライオンズクラブ●燕昇司信夫

ライオン誌事務所来訪者芳名録

1・16 長野県丸子 竹花 伸一
1・16 長野県丸子 矢島 光春
1・19 東京芝 土橋 正富
1・20 埼玉県浦和 吉田 博光

ライオン誌例会のススメ

ライオン誌日本語版委員会はライオン誌を活用する「ライオン誌例会」を推奨しています。本誌記事を材料に、例会で発表やディスカッションをしてはいかがでしょう。

3月号THEME（5～19㌻）はLCIF特集。「LCIFに献金はしているが何に使われているかよく知らない」との声が聞かれます。今号の事業レポートや年次報告、また主要プログラムや交付金の種類など情報豊富な公式ウェブサイト（www.lcif.org）を参考にしながら、LCIFについて学ぶ例会を開いてみましょう。

ライオン誌例会のノウハウを収めた**「ライオン誌例会 開催ガイド」**をぜひご活用ください。ライオン誌ウェブマガジン（www.thelion-mag.jp）でPDFファイルをダウンロード出来ます。

ライオン誌投稿要領

■クラブ・リポート 今月号32～41㌻：アクティビティ、例会など、クラブの活動を具体的に800字程度で。写真があれば添付。

■獅子吼 今月号43～47㌻：会員及びその家族によるエッセー、提言など。1,600字程度。

▼原稿は誌面の都合で編集したり、掲載出来ない場合があります。原則として原稿の返却は致しません。返却希望の場合はその旨を明記してください。

▼アクティビティ写真は動きのあるものを。記念撮影のような写真は掲載に適しません。

▼電子メールでの写真投稿は長辺1,600ピクセル程度のJPEG最高画質で。

▼住所、氏名、クラブ名を明記。

送付先：〒104-0045
東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階
ライオン誌事務所
Fax：03-3546-2630
E-mail：edit@thelion.jp

●1974年12月号　アクティビティへの反省　その2

「海外の福祉施設に学ぶ」

守屋正（京都紫明ライオンズクラブ）

『ライオン』誌バックナンバーから、読者の皆さんにぜひもう一度読んで頂きたい記事をピックアップ。スペースの関係上、多少の編集を加えている場合があります。

最近は海外旅行ブームである。ライオンズ関係の会報の随想欄にもよく旅行記が載っている。ところがこうした紀行文に、意外にライオンの本命としてのアクティビティの記事が少ない。毎年、国際大会やアジア大会の華やかな会場の模様や、外国のライオンズとの交歓風景は写真入りで大々的に報告されるが、外国におけるライオンズのアクティビティを見学したという記事は、ほとんど見当たらない。

数年前、京都に国際会長が来られて、盛大な歓迎の宴がはられ、京都の名所旧跡の案内が行われた。そのスケジュールに、ライオンズのアクティビティの実態をご案内するところが全くないことをご案内の当日に知って、私は地区キャビネットに電話し意見した。たまたま私が会長時代にクラブから寄贈した救急車が国際会長の市内観光の道筋の消防署にあったので、臨時にそこへ回って頂くことをアドバイスしたところ、快く私の提案を入れてくださった。

国際会長一行がその消防署に立ち寄ったところ、まるで申し合わせがしてあったように、ちょうど救急車「ライオンズ号」が出動する場面に出くわし、国際会長は大変喜ばれ、私も時の地区ガバナーに感謝された。

私は、もし国際会長をご案内するのならば、名所旧跡以上の、ライオンズの業績をお目に掛けるべきであると思っている。例えば、ライトハウスのような盲人福祉施設を1カ所ご案内しても、多年にわたる各ライオンズクラブのアクティビティは、うんとたくさんあるのである。これがライオンズらしい心のこもった歓迎方法ではないか、と思う。

私は日中戦争の最中、天津から奉天へ出張した時に、名所観光の中で、捨て子の収容施設である同善堂を見学したことがある。5年近く中国にいて、北京その他あちこちを軍務の傍ら旅行したが、今もなお、奉天で同善堂を見学したことが最も印象に残り、感動している。

私たちライオンが海外旅行する時は、努めて社会福祉施設やライオンズのアクティビティを見学することをお勧めしたいのである。

私は海外旅行の度に、同行者と別れてでも世界各国の視覚障害者施設を見学することにしている。こうした施設では突然訪問しても大変歓迎してくださるし、非常に勉強になる。この実態は本誌にいずれご紹介したいと思っているが、ホノルルの盲唖学校にはライオンズクラブが寄贈した立派なプールがあり、ブロンズのライオンズのマークがはめ込まれているのを見て、自分まで肩身の広い思いをしたものだった。

海外旅行先で、地元のライオンズの例会に出席して、バナーの交換をすることはよく聞くが、それを一歩進めて、海外のライオンズのアクティビティや、社会福祉施設を見学することこそ、ライオンとしての真の在り方ではないだろうか。こうしたことを中心とした海外旅行計画も、有意義と思っている。

読者プレゼント

■タイ・チェンマイの施設で作られたマスコットを5人に

「THEME：LCIF」(5ページ～)でリポートした、LCIFスタディ・ツアーの視察先であるバーンロムサイ、チェンマイ子どもの家で作られているマスコットをプレゼント。バーンロムサイのチャリティー・ベア(写真右)は施設内の工房で作ったクマにHIV感染者や支援者らの手で装飾を施しています。チェンマイ子どもの家の鳥のマスコット(左)は、職業訓練の一環として子どもたちが作ったものです。どのマスコットが当たるかは当方で選ばせて頂きます。

応募要領：ご希望の方は、はがきに「チェンマイ」と明記し、氏名、クラブ名、住所、電話番号をご記入の上、ライオン誌プレゼント係までご応募ください。ライオン誌ウェブマガジン(www.thelion-mag.jp/modules/inquirysp/index.php?op=0)からオンラインでの応募も出来ます。本誌へのご意見、ご感想もお書き添えください。締切は3月末日。応募多数の場合は抽選となります。当選のお知らせはプレゼントの発送をもって代えさせて頂きます。

伝言板

●全国のイオンで被災児童の絵画展

3月1日から31日まで、全国のイオンモールで岩手県山田町の9小学校の児童が描いた作品370点のパネルを展示する絵画展「夢、希望、そして未来へ」が開かれます。展示作品は、京都チェリー、京都薫風、京都むらさき各ライオンズクラブが合同チャリティー茶会の収益で購入し、岩手県・陸中山田ライオンズクラブを通じて各小学校に贈った画材で描かれたものです。1月に京都市内のイオンモールで開かれた絵画展への市民の反響が非常に大きかったことから、全国一斉展示が実現する運びとなりました。子どもたちの復興への願いがこもった作品をぜひご覧ください。

(332－B地区ガバナー／髙橋晴彦)

1月に京都チェリー、京都薫風、京都紫各ライオンズクラブ主催で開かれたイオンモール京都五条での絵画展

●ライオン誌では、特色あるクラブ運営を行っているクラブ、解散の危機を乗り越えたクラブ、独創的な活動に取り組んでいるクラブの情報を収集しています。「身近にこんなクラブがある」と、概要を添えて本誌へ情報をお寄せください。連絡先は左ページ下に記載のあるEメールまたはFAXで。

●訂正とお詫び

2月号「Pick up」(26ページ～)で高知桜ライオンズクラブ会員の氏名に誤りがあり、正しくはライオン五藤博子でした。お詫びして訂正します。

次号予告

THEME **東日本大震災追跡Ⅱ**

東日本大震災から間もなく1年。昨年10月号に続き、岩手県・陸前高田ライオンズクラブ、宮城県・南三陸志津川ライオンズクラブの会員とクラブの現状を取材し復興への足取りを追う他、被災地に元気を取り戻そうと開設され、ライオンズが支援した各地の復興屋台村の様子をリポートする。

Pick up **クラブ支部**

会員数5人以上で発足可能で、親クラブとは別に例会を開いたり、アクティビティを行うことが出来るクラブ支部。国内では50余りのクラブが支部を発足させている。その中から特に若手会員の育成を目的にしたクラブ支部を取材する。

ふるさと探訪 **群馬県渋川市**

急傾斜の石段の両側に旅館や土産物屋が軒を連ねる、風情豊かな温泉街、渋川市にある伊香保温泉を訪ねる。

「忘己利他」の精神

ライオン誌
日本語版委員
◉
矢口武克
（静岡県・浜松）

先日、瀬戸内寂聴師が、「東日本大震災」の被災地を、体調の悪さを押して見舞われた様子が、テレビ放映されていました。

その折に、被災地の整備をされていたボランティアの方たちに掛けた、「皆さんの行っておられる奉仕活動は、『自分のことは忘れ他の人々のために尽くせ』という仏語『忘己利他（もうこりた）』の精神にかなった立派な行いですよ！」という言葉が強く印象に残りました。

なぜならば、あのバブル崩壊と時期を同じくして、それまでは、日本民族の優れた特徴として、誰もがごく当たり前のように持ち合わせていた「隣人を思いやる気持ち」や「社会を気遣う気持ち」が薄れてしまったことに危機感を持っていたからです。

その結果として、日本の彼方此方で、振り込め詐欺・幼児の虐待・殺人等々、索漠とした社会現象が起きております。

私たちライオンズクラブにおきましても、多くの問題が顕在化し、あるいは顕在化しつつありますが、昨今、大きな問題として取り上げられている「クラブ員の質の低下」も同根と思わざるを得ません。

私たちが何を行動するにしても、その足元に必ず持っていなければならない基本的な、あるいは必要不可欠な「心」が、「思いやる気持ち」や「気遣う気持ち」であるに他なりません。

奉仕活動の一環として行っております、いわゆる「継続事業」は、「今年は去年の続き。来年は今年の続き」と、どうしてもマンネリ化しがちになります。ご承知の通り、私たちを取り囲む環境の変化は、その速度を急加速させています。継続事業が、変化するであろう先様のニーズに沿ったものになっているか否か、再確認する必要はないでしょうか？

小生自身、「奉仕をさせて頂く先様を思いやっての奉仕になっているのか？」「社会を気遣っての奉仕になっているのか？」を、自問自答しながら、奉仕活動に取り組んでいかねばと思っております。

「忘己利他」の精神で……。

Official publication of Lions Clubs International

Published by authority of the Board of Directors in 21 languages – English, Spanish, Japanese, French, Swedish, Italian, German, Finnish, Korean, Portuguese, Dutch, Danish, Chinese, Norwegian, Icelandic, Turkish, Greek, Hindi, Polish, Indnesian and Thai.

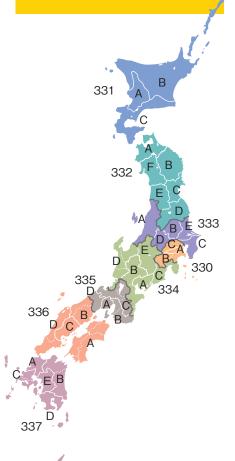
Lions Clubs International Headquarters
300 W 22ND STREET OAK BROOK IL 60523-8842 USA
TEL.(630)571-5466 FAX.(630)571-8890
Web site: www.lionsclubs.org

ライオン誌日本語版事務所
〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階
TEL. (03) 3542-9571（代）　FAX. (03) 3546-2630
E-mail. edit@thelion.jp
Website:www.thelion-mag.jp

日本のライオンズ

2012.1.31　eMMR ServannA報告による

地区	都道府県	クラブ数	会員数	男性会員	女性会員	期首からの増減
330-A	東京	200	4,989	4,298	691	62
330-B	神奈川・山梨・東京	179	4,982	4,399	583	72
330-C	埼玉	97	2,419	2,157	262	19
330	計	476	12,390	10,854	1,536	153
331-A	北海道（道央）	71	2,481	2,303	178	30
331-B	北海道（道北・道東）	90	2,525	2,404	121	43
331-C	北海道（道南）	56	1,891	1,691	200	6
331	計	217	6,897	6,398	499	79
332-A	青森	66	1,734	1,587	147	16
332-B	岩手	55	2,265	1,594	671	47
332-C	宮城	76	1,566	1,279	287	33
332-D	福島	76	1,990	1,797	193	34
332-E	山形	58	1,841	1,635	206	25
332-F	秋田	51	1,304	1,071	233	18
332	計	382	10,700	8,963	1,737	173
333-A	新潟	77	2,838	2,527	311	-10
333-B	栃木	57	1,605	1,157	448	22
333-C	千葉	139	3,568	2,985	583	32
333-D	群馬	53	2,121	1,716	405	45
333-E	茨城	78	2,861	2,553	308	52
333	計	404	12,993	10,938	2,055	141
334-A	愛知	121	5,351	4,788	563	83
334-B	岐阜・三重	83	3,570	3,284	286	66
334-C	静岡	83	3,201	3,081	120	45
334-D	富山・石川・福井	97	3,923	3,676	247	33
334-E	長野	53	2,088	1,852	236	50
334	計	437	18,133	16,681	1,452	277
335-A	兵庫（東）	98	2,443	2,097	346	-7
335-B	大阪・和歌山	188	5,738	5,091	647	44
335-C	滋賀・京都・奈良	121	3,993	3,681	312	61
335-D	兵庫（西）	68	2,006	1,794	212	8
335	計	475	14,180	12,663	1,517	106
336-A	徳島・高知・香川・愛媛	151	5,651	4,985	666	34
336-B	鳥取・岡山	96	3,129	2,825	304	-15
336-C	広島	101	3,491	3,292	199	39
336-D	島根・山口	101	3,261	3,035	226	7
336	計	449	15,532	14,137	1,395	65
337-A	福岡・長崎	117	4,508	3,983	525	84
337-B	大分・宮崎	73	2,355	2,188	167	81
337-C	佐賀・長崎	84	3,103	2,601	502	26
337-D	鹿児島・沖縄	80	2,399	2,178	221	12
337-E	熊本	58	1,583	1,443	140	14
337	計	412	13,948	12,393	1,555	217
総計		3,252	104,773	93,027	11,746	1,211
世界のライオンズの		7.0%	7.8%			

日本ライオンズクラブ分布図

世界のライオンズ

2012.1.31　国際協会集計

ライオンズ国または領域	206
世界のクラブ数	46,135
世界の会員数	1,347,278
期首からの増減	5,770

国	クラブ数	会員数	期首からの増減
アメリカ	12,324	350,225	-7,348
インド	6,030	214,363	9,672
韓国	2,121	84,631	1,294

ライオン誌3月号
昭和33年12月19日付第三種郵便物認可　定価180円　送料実費76円
2012年(平成24年)2月20日発行　毎月1回20日発行　第54巻第9号
発行所　ライオンズクラブ国際協会ライオン誌日本語版事務所　〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1　築地細田ビル7階　Tel 03-3542-9571
印刷所　共同印刷株式会社

51st OSEAL Forum

第51回東洋・東南アジア(OSEAL)フォーラム・福岡

■フォーラム・テーマ
LEADERSHIP

■期間
2012年11月8日(木)～11日(日)

■主要会場
マリンメッセ福岡（開会式）
福岡国際会議場（各種会議・セミナー）
ホテルニューオータニ博多（閉会式）

■第51回東洋・東南アジア・フォーラム組織委員会事務局
〒810-0004
福岡市中央区渡辺通1-1-2
ホテルニューオータニ博多5F
TEL:092-741-8601
FAX:092-741-8607
E-mail:lc51forum@iaa.itkeeper.ne.jp